公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成28年7月1日発行（毎月1回1日発行）通巻560号

ハンドボール

6·7
JUN. JUL. 2016 No.560

特集
第11回 春の全国中学生選手権大会
男子代表監督決定



［表紙写真］第11回春の全国中学生選手権大会、女子優勝・松橋中の米村友依選手（左）、男子優勝・甲田中の姉ヶ山京選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER

www.ana.co.jp

30th Anniversary International Service

これからも、5つ星の空で。

空を旅するすべてのお客さまに、ご満足いただける快適な時間と空間を。
今日もANAは5つ星のサービスで、みなさまを目的地にご案内しています。



英国のエアライン格付機関SKYTRAX社が主宰するエアライン・スターランキングで4年連続、世界最高評価「5STAR」を獲得。ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。

2019年熊本 女子世界選手権の成功に向け

「がんばるバイ　熊本」



公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事　**西窪 勝広**

1997年に「One Ball. One World」（ボールもひとつ、地球もひとつ）のキャッチフレーズで男子世界ハンドボール選手権大会が熊本で開催されてから19年の歳月が流れた。

大会期間中、多くのハンドボール愛好者が世界の戦いを目のあたりにしてどれだけの感動を受けたことであろうか。

また、世界から選手達を迎えるにあたり、開催地の熊本県民に一丸となってサポートして頂いた姿は、今でも世界ハンドボール連盟役員の方々や観戦など大会を盛り上げて戴いた多数の熊本県民の胸に強く焼き付いている。

そして、「あの感動を今一度日本に」を合言葉に、熊本が2019年女子世界選手権の立候補県として日本ハンドボール協会に申し出た。

①国際大会開催の意義：スポーツの力は偉大であり、世界の人々と心が繋がる唯一の手段である。アジアでしかも日本で開催することで日本及びアジア全体のハンドボール競技人口の拡大と日本の競技力向上に繋がる。

②熊本開催の意義：ハンドボール競技人口が多い熊本県での開催が今後のハンドボールの発展に拍車をかけ、1997年開催のスピリッツを維持し、経験を活かした次世代への引き継ぎを確実に実施できる。

③世界ハンドボール連盟（IHF）の評価：1997年熊本男子世界選手権は大会運営内容、熊本県民のもてなし等IHFから高い評価を得ている。

日本ハンドボール協会も招致内容を理解し、熊本県に招致委員会を設置して始動した。

招致に当たっては、IHFとの交渉に積極的に臨み、2013年10月カタール・ドーハにて催されたIHF理事会の最終プレゼンテーションを経て2019年熊本開催招致に成功した。

しかし、1997年から19年の歳月が流れ男子世界選手権のレガシーがどれだけ残っているか、自問自答すればする程先人のご尽力に今更ながら敬服している。今回の大会開催に当たり、日本代表の強化も含めどれだけレガシーとして残し、今後のハンドボール発展に結び付けていけるかが大きな課題でもある。

女子世界選手権に向けて男女問わず、日本代表の活躍が2020年の東京オリンピックにも結びついていると確信している。それにも増して大きな夢を持って全国各地でハンドボールの指導にあたって頂いている方々、選手達に明るい未来を確立する大会でもあり、これこそが本当のレガシーであり、日本ハンドボール界にとって大きな役割を持った重要な大会である。

すでに熊本県庁には、本年度4月1日から市と合同で国際スポーツ大会推進事務局を新設し、大会開催に向け活動を開始したところである。

その矢先「平成28年　熊本地震」が発生し、熊本のシンボルでもある熊本城も大きな被害を受けた。それ以上に熊本市、益城町などでは、自宅の全壊、半壊と目を覆いたくなるような惨状で、今も避難所生活を余儀なくされている方が多くいる。この自然災害による犠牲者も多く、ご冥福を祈ることしかできない自分に虚しさを感じている。

しかし、発生と同時に全国各地より温かいご支援をいただき、まだまだ全てではないが「がんばるバイ　熊本」の下、一歩一歩確実に歩み出している。私も熊本で生活している一人として皆様の温かいご支援に心から感謝している。

熊本県庁内に立ち上げた国際スポーツ大会推進事務局の方々も、天井の落ちた事務局で世界選手権に向け休むことなく活動していただいている。

「復興熊本　ハンドボール国際大会」も立案頂き、県知事や市長からも「世界選手権大会を通じて力強く立ち上がっていく熊本を世界の方々に見て頂こう」と嬉しい言葉をいただいた。

日本ハンドボール界も自然災害でご苦労されている方々に大きな夢と希望、そして活力を与える女子世界選手権にしなければいけない宿命があると痛切に感じている。

そのためには、ハンドボール愛好者の方々のお力とお知恵がないと成功はありえない。

「がんばるバイ　熊本」の復興にハンドボールで恩返しする事が私たちの使命である。

平成 27 年度

第11回 春の全国中学生ハンドボール選手権大会





会期：平成 28 年 3 月 26 日(土)～ 3 月 29 日(火)
会場：氷見市ふれあいスポーツセンター
　　　富山県立氷見高等学校第一体育館
　　　氷見市立南部中学校体育館

4点共　写真提供：スポーツイベント社





【最終順位】

■男子

優　勝：安芸高田市立甲田中学校（広島県）
準優勝：川口市立戸塚西中学校（埼玉県）
３　位：名古屋市立滝ノ水中学校（愛知県）
　　　　大分中学校（大分県）

■女子

優　勝：宇城市立松橋中学校（熊本県）
準優勝：小松市立芦城中学校（石川県）
３　位：大分市立原川中学校（大分県）
　　　　氷見市立十三中学校（富山県）

総　評

第11回春の全国中学生ハンドボール選手権大会を振り返り

氷見市実行委員会事務局
山貫 克郎

〜春に咲く君は春中ハンドの風になる〜の大会スローガンのもと、平成 28 年 3 月 25 日に開会式が行われ、26 日から 29 日までの 4 日間、全国の中学生ハンドボール選手が「ハンドボールの聖地・氷見市」において熱き戦いを繰り広げました。

春の全国中学生ハンドボール選手権大会は、平成 17 年からスタートし昨年で 10 年が経過、今年からは自立した運営を目指しながら更なる大会内容の充実を目指し、開催しました。大会運営の資金面では大変厳しい状況ではありますが、各方面から是非ともこの大会を継続してほしいとの多くの要望が寄せられ、2020 年（平成 32 年）までの継続開催が決定された最初の大会でもありました。大会運営資金捻出のため、インターネット上のクラウドファンディングにより日本各地のハンドボールファンからの心温まるご支援を賜り、大会開催継続の心強い後押しとなりましたことに心より感謝申し上げます。

さて、今年度も全国から男子 48 チーム（開催地、記念枠、島根県不出場）女子 46 チーム（開催地、記念枠、青森県、新潟県、島根県不出場）男女計 94 チームが参加しました。開会式前のアトラクションでは、新しい企画として「ハンドボール・ターゲット」、「トリックアート」のイベントや、原作：フウワイさん、作画：サカズキ九さんのコンビによるインターネット漫画「送球ボーイズ」のお試しコミック本が無料配布されました。また、ハンガリーで活躍中の日本代表・銘苅淳選手からの応援メッセージや、新しく結成された地元中高生ユニットグループ "寒ぶりっ娘" による大会歌「輝く、君は」も披露され、大会ムードが一気に盛り上がりました。

競技は氷見市ふれあいスポーツセンターをメイン会場に、富山県立氷見高等学校と氷見市立南部中学校の 3 会場で熱き戦いが繰り広げられました。例年、残雪があり雪がちらつく寒い日もあるのですが、今年は好天に恵まれ「富山湾の海越しに見える立山連峰」の素晴らしさが選手・役員の方々の胸にしっかりと刻み込まれたことと思います。また、選手のコンディショニングを考慮し、氷見市ふれあいスポーツセンターに富山県アスレチックトレーナー協会の方々に常駐して頂き、無料のテーピングサービスを行うと同時に、各会場にはドクターを配置して大怪我やインフルエンザなどの感染症対策にも配慮し、選手たちが競技に集中して臨めたことに関係各位に心から感謝します。

本大会は、地域の活性化を図るという趣旨から、氷見市内各地域からそれぞれのチームに "おもてなし" の精神で氷見市民がサポーターとしてチームの応援をする制度をとっています。中学生の頑張りを応援する市民も、一つ一つのプレーに選手と一緒になって一喜一憂し感動を分かち合っていました。大会中は滞在が長期に渡ることから、本大会とは別に "交流試合" を企画しています。新チームになってから間もないということから、交流試合も本大会と同様熱気に包まれていました。

大会の結果、女子の部は両校ともに初優勝を狙う熊本県代表宇城市立松橋中学校と石川県代表小松市立芦城中学校の決勝となり、芦城中学校の粘りで延長戦にもつれ込む激闘の末、1 点差の接戦を制して松橋中学校が初優勝の栄冠に輝きました。男子の部は、準決勝を怒濤の追い上げで延長の末に制した広島県代表安芸高田市立甲田中学校と準決勝を快勝した埼玉県代表川口市立戸塚西中学校の決勝となり、1 点を争う息の詰まる好ゲームが展開されましたが、残り時間 9 秒で得点をした甲田中学校が 2 試合連続の接戦を制して初優勝の栄冠を勝ち取りました。1 回戦から決勝戦まで選手の気持ちが込められた熱い戦いが展開され、各会場とも大いに盛り上がりました。

終わりになりますが、中学生ハンドボール選手に素晴らしい大会環境を整備し、大会を成功へと導いていただきました日本ハンドボール協会をはじめ関係各位に心より感謝申し上げます。



2点共　写真提供：スポーツイベント社

男子　安芸高田市立甲田中学校（広島県）優勝

甲田中学校男子ハンドボール部監督　竹本 秀樹

まず、この大会に出場できたことが大きく喜ばしいことでした。昨年度は6人のうち、4人がCP、2人がGKということもあり、部員数が足りず、予選大会への出場を断念しました。生徒と一緒にその予選大会を観戦しながら、「来年は必ず自分たちが春中にでよう。そして甲田中は強いということを証明しよう」と話したのを覚えています。4月に入り、小学生の時に成果を上げている一年生6人が入部してくれたことにより､大会に参加できるようになりました。私自身、少ない練習時間を効率よく､生徒一人一人が常に全力でかつ、各プレーの意味を理解させ、トレーニングしていくのが成長へのポイントと考え練習に励みました。また、練習試合を定期的にできたことも成長の要因であったと思います。

今大会では、ポイントとなるエース姉ヶ山のシュートや、司令塔である小先のゲームメイク、DFでのリーダーを任せている住吉が核となり、各選手が自分の役割を十分理解してプレーしてくれたことが、優勝への原動力となったと考えています。全員で12名という中で、全ての試合が接戦で、勝ち上がっていくことがやっとの状況でしたが、勝ち進んでいけたことは選手全員が精一杯持てる力を発揮し、接戦をものにしてくれた結果です。けが人が出る中、体力も限界を越えていました。しかし、精神力の強さで選手たちは最後まで諦めず戦ってくれました。その粘り強さが選手たちの本当の強さだと思います。

また、安芸高田市、保護者、地域の方々が、常日頃から選手たちを支えてくださり、集中して練習に取り組むことができたことも優勝の要因となりました。本当に感謝しています。さらに、大会中、氷見市の地域サポーターの方々の声援や他県チームの選手の応援、とてもおいしい料理を食べさせていただいた民宿さわいの方々など、たくさんの支えに感謝申し上げます。

この大会を通して見つかった多くの課題を、一つ一つクリアしていかなければ「夏の大会は厳しいものになる」と気持ちを引き締め、日々の練習をより一層充実したものにしていきます。広島県代表として初めての優勝という栄冠を手にすることができたことは本当に嬉しいです。この大きな経験を次のステップの糧として、これからも努力していきます。





女子　宇城市立松橋中学校（熊本県）　優勝

松橋中学校女子ハンドボール部監督　若山 順子

今回、第 11 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会に参加することができ、また優勝することができて大変嬉しく思っています。大会中、支えてくださった民宿の方や応援してくださった自治体の皆様、応援してくださった全ての方々に感謝申し上げます。

私たちが住んでいる宇城市はハンドボールが盛んで、これまで何度も日本一になっています。そんな環境の中で育ってきた生徒たちは、毎年「日本一」という目標を立て、それに向かって日々の練習に励んでいます。今年の地区予選では、全国大会常連の宇土鶴城中、全国小学生大会で日本一になった玉名中と戦わなければなりませんでした。練習も週末になると一日中ということが毎回でしたが、自分達で立てた目標を達成するために、生徒たちは歯を食いしばって辛い練習にも頑張ってついてきてくれました。地区予選では自分達らしい、足を生かした展開で優勝することができましたが、地区予選でよきライバルと戦うことができたことも今回の優勝につながったのだと思います。

大会中は、1 回戦から選手全員が自分達らしいプレーを出そうと頑張りました。準決勝までは 13 人全員がコートに立つことができたほど、松橋中らしいゲーム展開ができました。ここまで 5 試合を戦い抜きましたが、けが人も増え、疲労はピークに達していたと思います。決勝では、当然のように簡単には勝たせてくれませんでしたが、最後まであきらめなかった生徒たちを誇りに思うと同時に、こんなに素晴らしい体験をさせてくれた生徒・保護者には本当に感謝しています。

なお、今回の熊本地震により、私たちの住む宇城市の体育館は天井が崩れたり避難所になっていたりと、練習ができる環境がなかなか整いませんでした。しかし、この地震で全国からたくさんの声やたくさんの支援を頂き、改めて練習できるありがたさを強く実感させられました。この場をお借りしてお礼申し上げます。まだまだ余震が続いていますが、夏の舞台に再び立てるよう、これからもがんばっていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

松橋中学校女子ハンドボール部主将　一ノ宮 萌

私たちは昨年の夏、新チームになった時に“日本一になる”という目標を立てました。その目標に向けて走り込みを中心に練習を重ねてきました。練習の中で苦しいときやけがで悩んだこと、みんなの気持ちが揃わず目標を見失いそうになったこともありました。でも、みんなで声を掛け合い、13 人全員で乗り越えてきました。

そして、春の全国中学生ハンドボール選手権大会、1 回戦は開催地富山県の氷見北部中と対戦しました。地元チームなので応援も多く、圧倒されて出だしは緊張しました。でも、みんなで声を出して盛り上げ、守って速攻の松橋中らしいプレーができ、勝つことができました。その後も試合を重ねるごとに緊張もとれて、納得のいくプレーで準決勝まで勝ち進むことができました。また、13 人全員がコートに立ち、得点を決めることができたことも嬉しかったです。そして、決勝は、石川県代表の芦城中学校と対戦になりました。今までの試合での怪我や疲れも出てきて万全ではなかったのですが、「目標まであと少し！」とコートに立っているメンバーだけでなく、チーム全員で声を出し合いながら戦いました。前半はリードしていたのですが、後半に追いつかれて延長戦になりました。1 点取っては取られてのシーソーゲームでとても苦しい試合展開になりましたが、ラスト 15 秒でシュートがきまり、その 1 点を守りきり試合終了の笛が鳴りました。嬉しくて涙があふれ、泣きながらみんなで抱き合って喜びました。こうやって競り勝つことができて、日頃からきつくても走り込みの練習をがんばってきてよかったと思いました。

先生やコーチのご指導と、家族の応援も力になり、日本一になることができたと思います。

今は熊本地震によって思うように練習ができなくなりました。でも、全国のたくさんの方々から励ましの言葉やご支援をいただきました。こうして支えてもらっている感謝の気持ちを忘れず、また練習に取り組みたいと思います。そして、次は中体連の全国大会でも優勝し、“春夏連覇”できるように頑張ります。今後も応援よろしくお願いします。

男子

■準決勝

甲田 36(11−15、15−11、6−1、4−2)29 滝ノ水

甲田スローオフで始まった準決勝。滝ノ水・大矢のサイドシュート、石原のポストシュート、三谷のロングシュート等多彩な攻撃に対して、甲田は 6-0、4-2、5-1 と相手の攻撃に対応したディフェンスと姉ヶ山のロングシュート、谷本の好セーブにより一進一退の展開となった。ゲームが動いたのは 21 分。滝ノ水は、石原のポストシュート、速水のサイドシュート、そして加藤の好セーブからの速攻を含む 4 連続得点で点差を広げ、4 点リードで前半を折り返す。

滝ノ水・大矢のサイドシュート、甲田・小先のカットインで始まった後半、滝ノ水は、三谷、速水の連続得点でリードを広げるも、2 分、5 分と連続して退場となる。加藤の好セーブに助けられ一度はピンチを凌ぐ。しかし、10 分、18 分、さらに 21 分と立て続けに退場者を出してしまう。一方、ダブルマンツーマンディフェンスでリズムを取り戻した甲田は、首藤のサイドシュート、姉ヶ山のロングシュートで連続得点を重ね、後半終了間際に同点に追いつき、26 対 26 で延長戦に突入する。

延長戦に入り、勢いに乗る甲田は住吉のポストシュート、首藤、小先、大田のサイドシュートで 6 得点を奪う。滝ノ水も速水のカットインで盛り返そうとするが、その速水の退場が響き、6 対 1 と甲田が 5 点リードで前半終了。後半に入っても谷本の好セーブと前川のカットインで得点を重ねた甲田が、激戦を制し 36 対 29 で決勝戦への切符をもぎ取った。

■準決勝

戸塚西 24(12 − 6、12 − 4)10 大分

第 8 回大会優勝の大分と初出場の戸塚西の準決勝は戸塚西のスローオフで始まった。開始 30 秒で戸塚西は豊増のミドルシュートで先制し、4 連続得点で試合の主導権を握る。一方、大分は GK 野上が好セーブを見せるも、攻撃で戸塚西の DF を崩すことができない。それでも、前半 8 分に波津久のロングシュートで初得点を挙げる。しかし、戸塚西の公家のポストシュートや速攻で 3 連続得点をされ、前半 15 分 2 対 8 とリードを許す苦しい展開。ここから両チームとも速攻が決まり、一進一退の攻防を展開し、前半を 12 対 6 で戸塚西がリードをして折り返す。

後半に入っても戸塚西の勢いは止まらない。戸塚西は鵜沼のサイドシュートや奥本のポストシュートで着実に得点を重ね、後半 8 分には 16 対 7 とリードを広げる。大分も波津久、佐野を中心にシュートを放つも戸塚西の DF にブロックされ、得点することができない時間帯が続く。それでも後半 10 分、12 分に佐野が速攻やステップシュートを決め、反撃の機会を伺うが、戸塚西の速攻が立て続けに決まる。両チームとも多彩な攻撃をしたが、DF 力に勝る初出場の戸塚西が 24 対 10 で決勝進出を決めた。

4点共　写真提供：スポーツイベント社

■決勝

甲田　29(14 − 13、15 − 15)28　戸塚西

初出場初優勝を狙う戸塚西と、準決勝を延長の末に勝利した甲田の注目の一戦は、甲田のスローオフで始まった。前半は、戸塚西が公家の豪快なミドルシュートで連続得点し、ペースを掴むかと思いきや、甲田も姉ヶ山のミドルシュートや小先のステップシュートなどで反撃し、互いにリードを与えない一進一退の攻防が続く。12 分、戸塚西は 2 点をリードしたところで甲田・姉ヶ山にマンツーをつける。リズムを掴もうとするが、逆に甲田に速攻で連続得点を許し同点とされてしまう。18 分、甲田は 3-2-1 に DF システムを変更し、戸塚西のパワーと高さに対抗しようとするが、セットプレーから失点してしまう。前半終了間際、甲田・小先の回転シュートが決まり、14 対 13 と甲田 1 点リードで前半を折り返す。

後半、甲田は住吉の得点で、リードを 2 点に広げる。しかし、戸塚西はポストプレーから連続得点を重ね、ついに逆転する。19 分には戸塚西 GK 伊藤のナイスセーブから攻撃につなげ、公家のミドルシュートが決まり 2 点のリードを得るも、甲田・小先のカットインで再び同点とされてしまう。残り 30 秒で甲田がタイムアウト。直後にスカイプレーが飛び出し逆転、これが決勝点となり、甲田が勝利した。終了間際まで一進一退の攻防が続いた白熱した試合は、終始落ち着いてプレーした甲田の初優勝で幕を閉じた。

女　子

■準決勝

松橋　28（11 － 6、17 － 11）17　原川

九州勢２チームによる好カードとなった女子準決勝は、原川のスローオフで始まった。3-2-1DF の原川に対して、6-0DF の松橋。開始３分過ぎ、原川が石川のサイドシュートで先制。その後、松橋・一ノ宮、原川・清水が得点するが、両チームともにフットワークを生かした素早い動きで相手の攻撃を止め、序盤は２対１のロースコアとなった。10 分過ぎ、松橋が松永、米村の速攻で２連続得点し、原川も萩尾の速攻で３対３の同点。原川は速い動きとパスワークでシュートチャンスを狙うが、松橋の低い DF ラインを崩すことができず、好守からの逆速攻などで松橋に３連続得点を許した。原川はタイムアウトをとり立て直しを図るが、松橋は米村の４連続得点などで一気に点差を広げた。終盤、原川は石川のフェイントからのシュート、安東がサイドシュートを決め、前半は 11 対６と松橋リードで終了した。

後半開始直後、原川は 6-0DF に変えるとともに、OF のポジションを変え、萩尾、岩本、安東の３連続得点で巻き返しを図ったが、松橋も山脇、米村のカットインや速攻で４連続得点するなど一歩も譲らなかった。終盤、原川の萩尾がロングシュートを決めて猛追したが、松橋の GK 池田が安定したキーピングを見せるとともに、米村が 12 得点と大活躍し、28 対 17 で松橋が決勝進出を決めた。両チームともに、最後まで足の動きを止めることなく、チームの持ち味を十分に発揮した好ゲームであった。

■準決勝

芦城　26（14 － 9、12 － 15）24　氷見十三

北信越勢同士の対戦となった準決勝は、芦城のスローオフでスタート。開始１分、氷見十三が平井のミドルシュートで先制。しかし、その後芦城は藤井咲のミドルシュート、生駒のポストシュートなどで５分までに４対１とリードする。すかさずタイムアウトを取った氷見十三は、髙木のポストシュート、松井の速攻などで９分までに追いつくが、ここから両者一進一退の攻防が続き 15 分で７対７となる。試合が動き出したのは 16 分過ぎから。氷見十三が芦城の 3-2-1DF を攻めあぐねたのに対し、芦城は藤井美、藤井咲姉妹の速攻やコンビネーションからの辻のポストシュートなどで得点を重ね、14 対９と５点のリードで前半を折り返す。

後半、出だしの 10 分間は氷見十三のペースで展開する。平井の 7m スロー、桶のカットインで順調に得点を重ねる。一方、芦城は氷見十三 DF を崩しきれなかったが、上嶋の連続好セーブでこの時間帯をしのぎ切る。４分以上得点の無かった芦城であったが、11 分、中谷の速攻で 18 点目をあげると、その後は、その中谷が立て続けに４本のサイドシュートを決めるなど、次々に得点を重ねる。一方、氷見十三も林、嵐、髙木のポストシュートなどで対抗する。24 分に 26 点目を決めた芦城が、最後は 26 対 24 で逃げ切り、石川県勢初の決勝進出を決めた。

■決勝

松橋　22（11－6、7－12、2 － 2、2 －1）21　芦城

どちらが勝っても初優勝となる松橋と芦城の女子決勝戦は、芦城のスローオフでスタート。開始２分、芦城が藤井咲のミドルシュートで先制するも、松橋は橋口のポストシュートで応酬。松橋は 10 分過ぎから山脇の 7m スローを皮切りに一気に３連取し、７対４とリードする。芦城はすかさずタイムアウトをとり立て直しを図るが、松橋は DF からの速攻などで得点を重ね、５点リードで前半を折り返した。

後半に入ると、芦城は辻の速攻や藤井美の 7m スローなどで追い上げ、15 分には１点差に詰め寄った。その後は両チームともにゴールキーパーを中心とした DF が機能し、一進一退の攻防が繰り広げられた。芦城は終了 30 秒前に藤井咲のシュートが決まり 18 対 18 の同点に追いつき、延長戦に突入した。

延長もお互いの攻防は続く。芦城は退場者を出して苦しい時間帯が続いたが、上嶋のナイスセーブなどでしのいだ。21 対 21 の同点で迎えた終了 20 秒前、松橋は山脇がポストからシュートをねじ込み、これが決勝ゴールとなって松橋が初優勝を飾った。

5点共　写真提供：スポーツイベント社

男子代表監督に アントニオ・オルテガ氏 就任決定！

本年１月に開催されました「第 17 回男子アジア選手権」にて男子代表監督を務めましたアントニオ・オルテガ氏（スペイン出身）が、男子代表監督に就任することに決定いたしました。



Antonio Carlos Ortega Peres

（アントニオ カルロス オルテガ ペレス）
1971 年 7 月 14 日（44 歳）
Malaga Spain（スペイン・マラガ出身）



選手歴

＊ 1990-1994 BM Malaga 所属
＊ 1995-2005 FC Barcelona 所属（主な成績）
- スペインリーグ優勝：６回（1995-96, 96-97, 97-98, 98-99, 99-2000, 2002-2003）
- スペイン国王杯優勝：４回（1996-97, 97-98, 99-2000, 2003-04）
- ヨーロッパチャンピオンズリーグ優勝：６回（1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2005）

＊スペイン代表（国際公式試合数：144 試合）
- シドニーオリンピック（2000 年）：銅メダル
- アテネオリンピック（2004 年）：７位
- ヨーロッパ選手権（1998 年：イタリア大会）：銀メダル
- ヨーロッパ選手権（2000 年：クロアチア大会）：銅メダル

指導者歴

＊ 2005-2011 BM Antequera 監督
＊ 2012-2015 MKB-MVM Veszprem 監督（主な成績）
- ハンガリーリーグ優勝：３回（2012-13, 2013-2014, 2014-2015）
- ヨーロッパチャンピオンズリーグ：（2014：４位・2015：２位）

＊ 2015.12-2016.1 男子日本代表監督
- 第 17 回男子アジア選手権：３位（2017 男子世界選手権出場権獲得）

リオ・オリンピック１次リーグ組み合わせ・競技日程が決まる

2016年リオオリンピックハンドボールトーナメントのマッチスケジュール（8月6日～21日）がリリースされました。

女子は開催国・ブラジルが2012年ロンドンオリンピック金メダルのノルウェーと8月6日の開幕戦で対戦し、ハンドボール競技がスタートします。男子は翌日の8月7日、クロアチアvsカタール戦で開幕します。予選ラウンドは女子が8月14日、男子が8月15日に終了し、女子は8月16日、男子は8月17日から始まる準々決勝に進み、女子決勝は8月20日、男子決勝は8月21日で全ての日程が終了します。

１次リーグ組み合わせ〈女子〉

A組	B組
アンゴラ	韓国
スペイン	アルゼンチン
ブラジル	フランス
モンテネグロ	スウェーデン
ルーマニア	ロシア
ノルウェー	オランダ

１次リーグ組み合わせ〈男子〉

A組	B組
アルゼンチン	ドイツ
カタール	エジプト
チュニジア	ブラジル
クロアチア	スウェーデン
デンマーク	スロベニア
フランス	ポーランド



組み合わせ抽選会の様子（2016年4月29日）

競技日程〈女子〉

【開催期日】2016年8月6日～20日
【会場】Future Arena（リオ・バーハ地区）

■8月6日（土）

9：30	ノルウェーvsブラジル（A）
11：30	オランダvsフランス（B）
14：40	ロシアvs韓国（B）
16：40	モンテネグロvsスペイン（A）
19：50	ルーマニアvsアンゴラ（A）
21：50	スウェーデンvsアルゼンチン（B）

■8月8日（月）

9：30	韓国vsスウェーデン（B）
11：30	フランスvsロシア（B）
14：40	スペインvsノルウェー（A）
16：40	ブラジルvsルーマニア（A）
19：50	アルゼンチンvsオランダ（B）
21：50	アンゴラvsモンテネグロ（A）

■8月10日（水）

9：30	ブラジルvsスペイン（A）
11：30	ルーマニアvsモンテネグロ（A）
14：40	ロシアvsスウェーデン（B）
16：40	ノルウェーvsアンゴラ（A）
19：50	オランダvs韓国（B）
21：50	フランスvsアルゼンチン（B）

■8月12日（金）

9：30	アンゴラvsブラジル（A）
11：30	スウェーデンvsオランダ（B）
14：40	ルーマニアvsスペイン（A）
16：40	モンテネグロvsノルウェー（A）
19：50	ロシアvsアルゼンチン（B）
21：50	韓国vsフランス（B）

■8月14日（日）

9：30	モンテネグロvsブラジル（A）
11：30	スウェーデンvsフランス（B）
14：40	オランダvsロシア（B）
16：40	ノルウェーvsルーマニア（A）
19：50	スペインvsアンゴラ（A）
21：50	アルゼンチンvs韓国（B）

■8月16日（火）

10：00	準々決勝第一
13：30	準々決勝第二
17：00	準々決勝第三
20：30	準々決勝第四

■8月18日（木）

15：30	準決勝第一
20：30	準決勝第二

■8月20日（土）

11：30	三位決定戦
15：30	決勝
17：30	表彰式

競技日程〈男子〉

【開催期日】2016年8月7日～21日
【会場】Future Arena（リオ・バーハ地区）

■8月7日（日）

9：30	クロアチアvsカタール（A）
11：30	スウェーデンvsドイツ（B）
14：40	デンマークvsアルゼンチン（A）
16：40	ポーランドvsブラジル（B）
19：50	フランスvsチュニジア（A）
21：50	スロベニアvsエジプト（B）

■8月9日（火）

9：30	カタールvsフランス（A）
11：30	ドイツvsポーランド（B）
14：40	チュニジアvsデンマーク（A）
16：40	ブラジルvsスロベニア（B）
19：50	エジプトvsスウェーデン（B）
21：50	アルゼンチンvsクロアチア（A）

■8月11日（木）

9：30	チュニジアvsカタール（A）
11：30	ポーランドvsエジプト（B）
14：40	デンマークvsクロアチア（A）
16：40	ブラジルvsドイツ（B）
19：50	スロベニアvsスウェーデン（B）
21：50	フランスvsアルゼンチン（A）

■8月13日（土）

9：30	スロベニアvsドイツ（B）
11：30	クロアチアvsフランス（A）
14：40	デンマークvsカタール（A）
16：40	エジプトvsブラジル（B）
19：50	スウェーデンvsポーランド（B）
21：50	アルゼンチンvsチュニジア（A）

■8月15日（月）

9：30	ポーランドvsスロベニア（B）
11：30	ドイツvsエジプト（B）
14：40	フランスvsデンマーク（A）
16：40	スウェーデンvsブラジル（B）
19：50	クロアチアvsチュニジア（A）
21：50	カタールvsアルゼンチン（A）

■8月17日（水）

10：00	準々決勝第一
13：30	準々決勝第二
17：00	準々決勝第三
20：30	準々決勝第四

■8月19日（金）

15：30	準決勝第一
20：30	準決勝第二

■8月21日（日）

10：30	三位決定戦
14：00	決勝
16：00	表彰式

強化合宿レポート

U-18（女子）



石川監督

本年7月スロバキアで開催される第6回女子ユース世界選手権（7月19日～31日）に参加するU-18チーム。ANTCでの強化合宿を訪れ、監督・選手に大会に臨む心意気を伺った。前回2014年第5回の大会では24か国中の14位であったが、引き続き指揮を取る石川浩和監督は、「東アジア選手権にも出場する中で、選手とのコミュニケーションを十分に取りながらチームの状態を仕上げていき、大会では予選リーグでの戦いにピークを持っていけるようにしっかり調整したい。予選では、アフリカ、南米、欧州各地域のチームと対戦するが、欧州勢の一角に競り勝ち、上位で決勝トーナメントへ進出したい。そして、何とかベスト8に入るのが大会の目標です。」と意気込みを語られた。代表の4選手からのコメント。

金城ありさ（佼成学園女子高校）
自分のプレイではミドルシュートが得意であるが、相手守備の隙間からステップシュートや速さを活かした速攻を狙いたい。体格面では小さいので、スピードを活かしたプレイを心掛けたい。ユースだけでなく、上のカテゴリーでも活躍できる選手となり、2020年東京には代表選手として選ばれるようにこれからも頑張りたい。

中山佳穂（夙川学院高校）
昨年のアジア大会では思うようにプレイ出来なかったが、今回はデフェンスで強く当たり、自分のプレイを出せるように心掛けたい。攻撃では左利きの優位性を生かしてロングシュートなどに挑戦したい。大学3年となる2020年東京五輪では、日本代表メンバーに選ばれて出場できる選手になりたい。

中村楓夏（川崎市立高津高校）
昨年のアジア大会では出場の機会が少なかったので、今回は一つでも多くの試合に出場してチームに貢献したい。ロングシュートが得意であるが、大きな選手が相手であり、間から枝を利用したシュートを狙いたい。U-18代表だけでなく、その先のカテゴリーでも通用する選手になりたい。

澤田のどか（大阪教育大学）
大会では、デフェンス面で当たり負けしないで守ること、攻撃面では相手が高いので隙間からのシュートを狙いたい。デフェンスを引きずってでも攻撃ができるようなパワーをつけて臨みたい。今年から大学に進学しましたが、大学でも多くの試合に出ることとリーグで優勝することが目標です。


左から、金城・中山・中村・澤田選手

U-19（男子）



所監督

本年8月バーレーンで開催される第7回男子ユースアジア選手権（8月27日～9月7日）に参加するU-19チーム。ANTCでの強化合宿の中、監督・選手に大会への抱負を伺った。前回2014年第6回の大会では9か国中3位となり、翌年の世界選手権への切符を手にした。今回は、2017年世界ユース選手権への切符は2か国と絞り込まれ厳しさが増している。陣頭指揮を取る所努監督は、「先ずは3回連続で世界の切符を獲得したい。選手にもチームとしての目標をしっかり伝えていきたいが、出場枠の切符が一つ減ったため、予選リーグからしっかりとした戦いでファイナルに勝ち上がり、最後には何としても切符を獲得したい。守備面では6－0をベースに、相手が侵入してきた時には密集して攻撃を防ぐこと、攻撃では個々の高さはあるがパワーが不足しているので、コート20 mの幅を有効に使ったプレイを展開、ノーマークを作り出し最後にキーパーとの対峙へと展開をしていきたい。東アジア選手権への出場も予定しており、大会前に最終調整して臨みたい。」と語られた。以下、代表の3選手からのコメント。

高光　凌（国士舘大学）
昨年の世界ユース選手権出場の経験を生かして他のメンバーを引っ張って行かなければならないと考えている。今大会では世界選手権への出場数が2枠となったことから、アジア選手権では1位になる目標で頑張りたい。プレイ面では、大学生らしいキーピングを発揮してチームを盛り上げていきたい。2020年には実業団1年目の年であるが、日本代表選手に選ばれるようにこれからも頑張っていきたい。

高野颯太（浦和学院高校）
選ばれて良かったと思ったと同時に、日本代表に選ばれる夢が叶ったと嬉しかった。先輩たちは2大会連続で世界への切符を手にしており、自分達もなんとしてでも世界選手権への出場を果たしたい。190 ㎝を超える身長を活かして、ポストの高い位置でのキープからの攻撃展開、守備では3枚目として大きな選手へもしっかり当たれるように心掛けたい。2020年には大学4年生、現在の日本代表にも数名の大学生もいることから、自分も選ばれるように頑張りたい。

村木幸輝（総社高校）
レベルの高い中でハンドボールができ、得るものも大きいであろうし大変に楽しみである。大会では、しっかりとやるべきことを徹底して実践し、先輩方に引き続いて3大会連続で世界選手権出場を成し遂げたい。背は大きくないが攻撃的なデフェンスで頑張り、試合の最後まで走り切れればと考えている。今回、選ばれた事に満足せずこれからも努力して上のカテゴリーでも選ばれるように頑張りたい。



左から、高光・高野・村木選手

U-20（女子）

本年７月ロシア・モスクワで開催される第20回女子ジュニア世界選手権（７月３日～15日）に参加するU-20チーム。日本体育大学での強化合宿を訪れ、監督・選手に大会に臨む心意気を伺った。前回2014年第19回大会では24か国中の17位であったが、2015年８月ジュニアアジア選手権から引き続き指揮を取る辻昇一監督は、「準備期間も少ない中で、大会では緒戦の中国戦を制して決勝トーナメントに進みたいし、出来ればベスト８に名を連ねるように準備して臨みたい。強化合宿でも全員が揃わない厳しい状況の下ではあり、しっかりとしたチーム作りが難しい中でも、今の自分たちで出来る事に全力を集中して大会に臨みたい。選手らは昨年のジュニアアジア選手権をベースに編成しているが、2020東京に向けて更にステップアップさせなければならない年代だと考え、大会出場を切っ掛けに大いなる成長を期待している」と意気込みを語られた。代表の３選手からのコメント。

山口絵梨香（北國銀行）
大会では、今までのチーム環境と違ってくるが、周りを活かしながら自分も生かせるように行動していきたい。特に攻撃では、左利きの有利さを活かしてのロングシュートを沢山決めたいです。2020東京の代表選手に選ばれたいが、先ずはチーム内でしっかりとレギュラーポジションを獲得することが、次の上へのステップに繋がってくるので努力していきたい。

河原畑祐子（筑波大学）
今回のメンバーは前回アジア選手権出場選手と新たに加わった選手もいるので、今までの経験をゼロにしないでプラスに持っていけるようなチーム作りに取り組んでいきたい。自分が得意とするプレイは攻撃でのサイドとのコンビプレイであり、大会でも挑戦していきたい。直近の夢は2020東京でメンバーに入るだけでなく、コート上で活躍できる選手になっていたい。

高杉桃加（オムロン）
U-20の中でも一番上の世代であり、更には実業団チームに所属もしているので、プライドを持って大会に臨みたい。攻撃面ではロングシュートよりもカットインが得意であり、大会でも自分の特徴を発揮していきたい。2020東京オリンピックでは日本代表選手として出場することが夢です。



左から、山口・河原畑・高杉選手

U-21（男子）

本年７月ヨルダンで開催される第15回男子ジュニアアジア選手権（７月22日～８月１日）に参加するU-21男子チーム。ANTCでの強化合宿の中、監督・選手に大会への抱負を伺った。前回2014年第14回大会では11か国中の３位となり、30年振りの世界選手権への出場切符を手にした。陣頭指揮を取る佐藤壮一郎監督は「チーム全体の思いは、ハンドボールをもっとメジャーにすることであり、そのためには2020東京オリンピックで結果を残さなければならないと考えている。2020年の日本代表選手の年齢を考えれば、このジュニア大会参加選手が日本代表選手として選ばれるぎりぎりの年齢であろうし、選手たちには日本代表候補選手としての意識づけをしながら、今大会ではアジアチャンピオンになり、更に世界選手権でも結果を残していきたい」と語られた。以下、代表の３選手からのコメント。


佐藤監督

山田信也（明治大学）
U-21に選ばれ素直に喜びました。ユースの時には当たり負けしていたので、今回は思い切り良くディフェンスに挑戦していきたい。自分ではディフェンスの強さがアピールポイントです。これからは世界を見据え、自分の目で高いハンドボールを体験していきたい。

小澤　基（日本大学）
U-21に選ばれて大変に嬉しい。大会では、フィジカル面で負けないように努め、フットワークの良さを生かしたディフェンスを心掛けたい。2020年のオリンピックを目指して個人の体力やスキルを向上させ、代表選手に選ばれれば最高です。

藤村勇希（中部大学）
昨年の世界ジュニア選手権出場の経験を生かして、チームには体幹の強さの重要性を伝えていきたい。今大会では、前回のアジア選手権で久々に獲得した世界選手権出場への切符を是が非でも取りたい。私自身は体の強さには自信があり、2020年のオリンピックに選手として出場するのが夢です。



左から、山田・小澤・藤村選手

U-24（女子）


楠本監督

本年６月スペインで開催される第23回世界学生選手権（６月27日～７月３日）に参加するU-24チーム女子。ANTCでの強化合宿を訪れ、監督・選手に大会の意気込みを伺った。前回2014年第22回大会では11か国中６位であったが、指揮を取る楠本繁生監督は「16人をフル活動して、一人が二つのポジションをこなせるようにしていきたい。大会では選手・スタッフ全員の力で結果を残せるようにしていきたい。未だ参加するチームもはっきりしないがスペイン開催であるので、参加チームも増えてくるだろう。相手は見えないが、自分たちのすべきハンドボールを徹底して練習していきたい。2019年、2020年には日本代表に選ばれるような選手も輩出するであろうし、代表選手としての意識づけをしていきたい。そして、一人でも二人でも今回のメンバーから日本代表に選ばれるように、この大会でステップアップしてほしいと思います」と語られた。代表の３選手からのコメントは以下の通り。

秋山なつみ（大阪体育大学）
大学生ですが先輩方と一緒にハンドボールができてうれしい。背が小さいので、相手のパワーに当たり負けないディフェンス力、守って速攻へ展開できる攻撃を目指したい。左利きでサイドのポジションが多いので、確率の高いサイドシュートを狙いたい。大学では、先輩たちが築いたインカレ３連覇を継承できるようにしていきたいし、折角のチャンスですから2020年の代表選手を目指したい。



左から、秋山・大山・板野選手

大山真奈（北國銀行）
今回代表選手として選考されたからには結果を残したいと思います。寄せ集めのチームですが、大会ではちょっと違ったハンドボール、いつもと違うぞと周りのチームに思わせるようなハンドボールが展開でき、そして勝てれば最高です。私自身はこれと言った取柄は無いが、周りを活かしつつ決めてくること、どこのポジションでもこなせるプレイヤーだと思っています。今後は、自分の所属チームで力を出すことが一番ですが、2019年、2020年を目標に、国内での活躍はもちろん、世界も視野に入れてプレイしていきたい。

板野　陽（広島メイプルレッズ）
前回大会は大学４年生の時に選ばれたが出場機会が少なかった。今回は自分が出場して結果を残してきたい。チームの戦術に早く慣れ、その中で自分のプレイを発揮できればと考えている。国内では大きいGKですので、体格のサイズを活かしたキーピングを、そして最終守備者として自分が壁になって相手の攻撃を防ぎたい。今後は、所属チームで安定したプレイヤーになることが一番ですし、国内にとどまらず常に世界を見据えて練習や試合に取り組んでいきます。

医事専門委員会だより

アンチドーピング豆知識①

（公財）日本ハンドボール協会 医事委員会

禁止物質や禁止方法は少なくとも毎年１月１日に更新されます。必ず確認をしてください。

禁止物質や禁止方法は、世界アンチ・ドーピング規程の禁止表国際基準（Prohibited List）に定められ、少なくとも毎年１月１日に更新されます。常に禁止されている物質、競技会の時だけ禁止される物質や特定の競技において禁止されている物質などの規定があります。

本年１月の改定に関連して、テニスのシャラポア選手から禁止物質「メルドニウム」が検出され、ドーピング違反について記者会見が行われ、処分を受ける事が発表されました。この物質は前年までは使用禁止物質ではないため、約10年という長期間にわたり使用をしていたようです。しかし、今年の更新規定により禁止物質になったためにシャラポア選手はドーピング違反となってしまいました。この時の記者会見で、自分自身の責任について『私は自分が摂取するあらゆるものに対しての責任を負わねばならない』と話をされていたことは、アスリートの自覚として深い感銘を覚えました。

薬局で一般に購入できる医薬品、サプリメントにも注意！

ドラッグストア等で買った薬の使用や、使用前に成分を調べずにうっかり飲んだ風邪や花粉症の薬、漢方薬、サプリメントにも禁止物質が入っていることがあります。たとえその使用が意図的なドーピングをするためのものではなく、治療を目的とした場合でも、薬を使用する際にはドーピング防止に関する専門知識を持つ者に相談してください。

万が一服用したものの中に禁止物質が入っていた場合にはドーピング違反となります。

サプリメント等の服用でも、その時代での検査方法の精度により、今まで検出の難しかった成分の検出が可能になり、微量のものでも検出できるようになる場合があります。そのために使用の制限が発生する場合があります。使用するサプリメントの成分についても最新の情報を常に得るようにしてください。

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）のホームページにはJADAの審査を経てWADA2016年禁止表（The World Anti-Doping Code THE 2016 PROHIBITED LIST INTERNATIONAL STANDARD）に抵触しないJADA認定商品として承認されています（2016年４月１日現在登録順）。日本ハンドボール協会としては、このJADA認定商品の使用を推奨します。

JADAホームページPLAY TRUEには上記を含めアスリートとして知っておいて頂きたい「アンチドーピング」に関する情報が分かりやすく書かれています。ぜひご覧ください。

参照：JADA　http://www.realchampion.jp/start

JHA オフィシャル・テクニカルデレゲート（TD）の任務

平成 28 年 4 月 1 日実施版

（公財）日本ハンドボール協会競技運営部

平成 28 年度より、競技運営の方法を一部変更して行う。平成 27（2015）年 1 月に開催された男子世界選手権、同年 12 月に開催された女子世界選手権の実施状況からの情報を参考に、早期に「国際基準」に到達するよう改善すべきところは早急に着手する考え方で進める。オリンピック、世界選手権で設営している施設、設備および運営方法は可能な限り取り入れていくこととするが、開催体育館の施設、設備によって現実的に対応できない点も多々あり、経済的負担も考慮し対応していくこととする。

この任務は、日本ハンドボール協会（以下本協会という。）主催、共催大会、加盟団体の主催、共催大会の全試合に適用する。本協会主催の場合は JHA オフィシャルとし、その他の主催者の場合は主催者オフィシャルとして読み替える。ただし、都道府県大会あるいはその地区大会等この任務に示した事項が一部実施できない場合は準用して大会､試合を行う。それらの場合であっても、各試合の責任者として主催者の役員を主催者オフィシャルとして 1 名配置し、記録席の係員が TD の任務を遂行する。大会中の各試合の全責任は当該大会の競技委員長にあるが、JHA オフィシャル・TD（以下、O・TD という。）は当該大会競技委員長のもと、競技役員として試合に立ち会い、試合を円滑に運営するために、レフェリー、タイムキーパー、スコアラー、その他の競技役員、補助員と協力して担当試合を管理する責任者である。

近年、TD としての任務は拡大され、今回 JHA オフィシャルという制度を設置するが、それらの責任は重大であることを再確認しなければならない。改めて O・TD の任務を確認し、適切な競技運営がなされることが求められる。

任命された O･TD は、最新の競技規則書、競技規則書必携、大会開催マニュアル、ストップウォッチ、及び笛、その他試合に必要な物品を持って試合に臨まなければならない。ほとんどの事項は競技規則書、競技規則必携、大会開催マニュアル及び毎年度発行されている競技運営に関する通知に記されている。

以下に、一般的な O・TD の任務の流れを記した。原則として、すべての事項を把握しておかなければならない。O・TD に代わってできる事項は、記録席補助員、あるいは、競技役員、委員に対応させてもよい。これらの判断は O・TD がする。

用語の使い方として、O・TD が直接行動しなくても良い事項を、「管理」すると表現した。ただし、各試合のすべての事項の責任は、O・TD にある。

TD は 1 名をタイムキーパー、1 名をスコアラーとする。交代地域の管理、不正交代等の管理業務は、2 名同格、同責任である。試合開始までの準備を的確に遂行すれば、交代地域規定を遵守させることが最大の任務となる。特に、交代地域におけるプレーヤー、チーム役員のスポーツマンシップに反する行為の管理は、O・TD の責務である。

1　O・TD の果たす役割



1-1　レフェリー、他の競技役員、補助員と協力し、円滑なゲーム管理を行う。

1-2　判定上の問題が生じたとき、適切な助言・勧告を行う。

1-3　時計の管理、交代地域規定の管理をする。

1-4　公式記録用紙の管理・照合を行う。

1-5　試合中止の判断はレフェリーおよび O・TD にあるが、続行のために適切な助言・勧告を行う。

1-6　交代地域違反についての管理、運用は O・TD の最大の任務である。

1-7　試合中、事実判定を除いた異議申し立てがあった場合は､真摯に対応し適切に判断する。必要があれば競技委員長、大会委員長と協議し、適切な競技運営の責任を負う。

1-8　試合終了後、チーム責任者を通じて行われる異議申し立ての時間を、試合終了後 1 時間以内とし、裁定委員会を開催し協議する。

2　O・TD の配置

2-1　各試合に責任者として O･TD を配置する。記録席（現在、国際ハンドボール連盟（以下 IHF という。）ではジャッジーズテーブル（以下、記録席という。）と呼ぶ。

記録席の両サイドに TD をそれぞれ 1 名、記録席補助員としてタイムキーパー・スコアラー補助員を配置する。本協会は公式記録用紙を改正し、補助員の業務を簡素化することから最大 4 名が座れるスペースを確保する。アジア連盟は左に AHF オフィシャルが座り、その横に TD（スコアラー）を配置している。さらに逆側のはじに TD（タイムキーパー）をおく。O・TD の服装は、写真のように O・TD として統一した服装とする。ブレザーにネクタイ着用もしくはスポーツウェアーを着用する。







2-2　全国大会だけでなく、ブロック大会、都道府



県大会、地区大会でもO・TDを配置する。競技会の種別に限らず、記録席の両端に座る役員をTDとし、補助員とともに試合の運営にあたる。IHFはO・TDの資格を制度化していないが、本協会として何らかの資格制度の早期導入を検討している。平成28年度も全国でO・TDの講習会を開催する予定で、平成26年度より参加者に対して試験を課している。これらのことから講習会参加者を中心に、有資格者として取り扱うことも検討している。O・TDは、競技規則の熟知には常に努力をするべきである。



2-3　O・TDは、競技委員長のもと、競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため、レフェリー、全ての競技役員、補助員と協力して、当該の試合を管理する責任者である。

2-4　各試合に、O・TDを配置する。各試合にJHAオフィシャル1名、記録席にTD2名、補助員2名を配置する。コートから見て左側に位置するTDはタイムキーパーの業務をする。右側に位置するTDはスコアラーの業務をする。

O・TDは交代プレーヤーの不正交代、不正出場を管理する。また、交代地域の管理をする。

2-5　AHF大会は、記録席後方にAHFオフィシャル席をおいていない。

2-6　競技中の競技役員の通信機器の利用を積極的に推進する。審判2名とTD1名の3台1セットが最小単位である。余裕があればもう1名のTDおよびJHAオフィシャルが使用する。最新のIHFの世界選手権大会ではIHFオフィシャル1名の5台1セットで運用している。



2-7　通信の内容は競技運営上の各種の情報提供が主である。通信機器は公的な電波を利用することから、短時間の交信で、的確に行う。通信の内容は事実判定に関する指摘は避けなければならない。O・TDはレフェリーの死角でおこった失格相当の違反に対して助言することができる。

2-8　本協会競技委員長、本協会審判長は競技運営を円滑に推進するため、また、レフェリー支援のため、記録席または別の場所から通信機器を用い、レフェリー及びO・TDに各種のアドバイスをすることができる。

3　審判会議

3-1　大会のO・TDに指名された役員は、情報収集を含めて各種決定事項に対し、レフェリーと共に共通理解を得るために出席する。

4　代表者会議

4-1　その大会のO・TDに指名された役員は、当該大会の代表者会議に出席する。

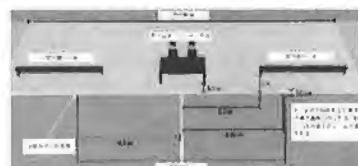
4-2　各チームは、その大会に出場するプレーヤー、参加するチーム役員の登録証を持参し、試合ごとにO・TDが確認する。プレーヤー、チーム役員の登録については各大会で定める。原則として申込期日を過ぎたプレーヤーの登録は認められない。チーム役員の登録は随時できる。

4-3　各チームは、その大会で着用するすべての種類のユニホームを持参し、代表者会議で決定する。競技委員会及び各試合でO・TDが確認する。

4-4　プレーヤー変更は代表者会議開始前までに届け出る。届出書に理由は明記するが、理由は問わないので、証明書の提出は必要ない。国体は日本体育協会の規定通り従来通りとし、国体要項に従う。

5　試合開始前





写真のように、IHF大会では、記録席後方は大会役員のサポート席となる。主管国協会競技役員席を含め、IHF役員、PCゲーム分析班席、主管協会席、アナウンサー席、となっている。



右のイラストのように、記録席はサイドラインから50㎝離し、ベンチは1m離してセッティングする。2015年のカタールでの男子世界選手権では1m程度サイドラインから離れていたが、同年デンマークでの女子世界選手権では規則通り50㎝程度であった。

5-1　各大会、各試合は、平成28年度本協会競技規則及び最新の競技規則によって行う。

5-2　試合開始前に会場、コート、ゴール、ゴールネット、キャッチネット、ボール、交代地域のスペース、ベンチの長さ、ベンチの数、記録席関係備品等の有無、放送設備、医務関係の準備状況を管理し、各種機器の動作具合の点検を管理する。また、その他全般的な事項を管理する。ベンチはチーム役員、プレーヤー全員が座ることのできる16脚のイス（連結イス）が望ましい。（参考）IHFは試合開始までのタイムスケジュールを下記の通りとしている。

90分前　会場に到着

75分前　各用具の確認（ゴール、キャッチネット、記録席、役員サポート席、公式電光表示板）

60分前　各用具及び記録席用具の確認（卓上時計、ストップウォッチ、イエロー・レッドカード、笛、グリーンカード2セット、予備の退場者表示カード、チーム役員カード、試合関係用具、メンバー表の受理）
40分前　チーム役員カード、グリーンカードをチーム責任者（A）に渡す
30分前　チーム役員にプレーヤー、チーム役員のユニホームを確認する
11分前　試合開始のための通常のセレモニー開始
2分前　両チームの交代地域の用具の確認
（参考2）2016年3月、IHFリオ・オリンピック女子最終予選のタイムスケジュールは下記の通り。
40分前　ウォーミングアップ開始
16分前　コイントス
11分前　セレモニーのためにプレーヤー退場
10分前　セレモニー開始のアナウンス
9.5分前　プレーヤー入場
8分前　プレーヤー等紹介
4分前　国歌演奏
0分　試合開始



5-3　競技会場は、正規コートを使用する。競技規則に定められた通りとするが、教育機関の大会など特別な場合、正規コートを使用できないと定めたときは、その規則に従う。交代地域にコーチングゾーンを設定する。ラインを引くことが絶対条件ではないが、IHF審判部のタワコリ氏見解では、センターラインから50㎝離して80㎝から100㎝の長さで引く。その際、サイドラインと異なる色が望ましい。センターラインから3.5mの位置を始点として、ベンチの終端までを交代地域という。女子の世界選手権ではベンチ終端から1m程度離れた場所、7mラインからの延長線上に、サイドラインから50㎝離して80㎝から100㎝のサイドラインと色の異なるラインを引き、ここまでを交代地域とする。交代地域内で各種の指示をするために、1名が立つことが許される。

5-4　大会使用球は、本協会、もしくはIHFの検定球を使用する。ボールの外周、重さは競技規則通りとする。空気圧の数値は各試合の前に、O・TD、レフェリー、チーム役員の協議によって決定する。適正なボールの機能が発揮できる空気圧とする。



5-5　本協会の大会で使用するユニフォームは、2種類以上用意することとする。IHFは3種類としている。1種類は明るい色、もう1種類は濃い色とする。その他の種類の色は任意とする。本協会競技本部として、白一色のユニホームを用意することを推奨する。ゴールキーパー（以下、GKという。）の色は上記2種類以外の色とする。その試合に出場するGKは同じ色のシャツもしくはベストを着けなければならない。色はユニホームの大部分を占める基調色を色と呼ぶ。図でいえば、左が白で右が赤である。ユニホームに高さ20㎝以上の背番号、高さ10㎝以上の胸番号をつけなければならない。背中に名前を入れる場合は、高さ10㎝以内とする。平成27年度のジャパンオープン、国体、日本選手権ではこの規格を厳格に守り、当て布、色塗り等指導し、規則通り実施させた。

代表者会議で承認されたユニホームの確認、承認は、第1試合は試合開始30分前、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に記録席前で行う。その試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。調整がつかない場合は、IHFルールと同様に、チーム番号の大きいチームが変更する。参考に、IHFのユニホーム広告に関する画像を示す。

5-6　短パンツの下に着用するサイクリングパンツの着用は許可される。しかし、短パンツと同色でなければならない。平成27年度までは、チーム全員が同じ色のサイクリングパンツを着用するならば、短パンツと色が異なっていても許可されたが、今年度からは短パンツと同色でなければならないと変更した。レフェリー、O・TDが随時チェックするが、責任はチーム責任者及びプレーヤーにある。走るとき、倒れるとき、たびたび規則に違反している状態の時は、レフェリー、O・TDが注意するか、使用しないよう、脱がせる指示をする。



5-7　サポーターとして使用できるものは、各部位の医療用を目的として用いるものを許可し、リストバンド、エルボーサポーター、大腿部サポーター、ニーサポーター、下腿部サポーター、アンクルサポーターをいう。上記サポーターは、ソックス、ハイソックスと同様、ユニホーム、短パンツと色違いであっても認める。写真のような色違いのアンダーシャツ、アンダーパンツの使用は許可されない。

複数の部位を覆う写真のような用品はウェアーとして扱われ、写真のようなアームスリーブズの着用は認められない。

また、サポーター等にメーカーロゴが大きく表記されているグッズの着用は認められない。IHFはシャツ、短パンツ、ソックス等のウェアー類は20㎝2を超えないことと規定していることから、本協会もこの規則を適用する。サポーターは、表面に金具が露出しているものの着用を認めない。

5-8　コートプレーヤーの単独で着用するロングアンダータイツは、認めない。ゴールキーパーがコートプレーヤーとしてプレーする場合（ゴールキーパーが交代し、さらにコートプレーヤーと同じユニホームを着用した場合）は除く。

5-9　同じチームのゴールキーパーのシャツの色は、同色でなければならない。ビブス（ベスト）を着用する場合は、登録された色（同色）でなければならない。その場合、登録された同じ番号でなければならない。登録されたゴールキーパーと同色の、穴あきのユニホーム（ビブス）を着用すること

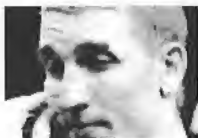




は許される。ユニホームの色が同じであれば、形にはこだわらないということである。

5-11　背番号はユニホームにきちんとつけておかなければならない。背番号がとれそうな状態でのプレーは禁止する。ピンやテーピングで止めることは許されない。正されるまで競技に出場できない。確認、出場の許可はO・TDの任務である。

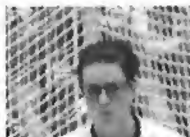
5-12　ピアス等は、イヤリングや突起のない指輪と同類のものとして位置づけられ、他のプレーヤーに危害を及ぼさないように、テーピング等で覆わなければならない。TDがレフェリーに助言・勧告をし、管理する。写真左はテーピングで覆っているので許可される。写真右はピアスを覆っていないので、ピアスを覆うまで出場は許可されない。





5-13　顔面（フルフェース）マスクは、IHFルールではいかなる素材であっても許可されない。国内でも顔面の表情が読み取れないようなフルフェースのマスクの着用を禁止する。ただし、写真のような眼鏡タイプおよびソフトゴーグルタイプの使用は認める。形状については、代表者会議の席上、申告を受け、大会競技委員長が許可する。その結果を受けて、O・TDが管理する。











5-14　屋内外で行われる競技会では、特に禁止されていない場合、指・手のひらに松ヤニを付プレーしてよい。松ヤニが許可されている大会、会場でも、競技会場以外で松ヤニが施設に付かないように注意させる。

5-15　靴に松ヤニをつけておくことはIHFでは許可されている。使用が許可されている大会では、チームの責任において、コートから離れたとき、廊下、更衣室を含め、その他の施設に松ヤニがつかないよう対応する。ただし、大会規定に明示して、松ヤニそのものの使用を禁止することや、靴に松ヤニをつけることを禁止することができる。

5-16　指以外の手の甲、手首に松ヤニをつけて（溜めて）おくことは禁止する。O・TDはついていた松ヤニがとれたことを確認して、出場を許可する。

5-17　トスは、試合開始前、記録席前で行う。国内での第1試合のトスは、試合開始30分前（IHFルールでは16分前）とし、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に行う。トスには、チームを代表するプレーヤー、もしくはチーム役員が立ち会う。試合開始30分前、もしくはそれ以前の時間でトスが行われることから、スローオフ直前のサイドチェンジはない。トスは競技開始前にレフェリーが行うが、O・TDは立会い、問題が生じたときにはO・TDが助言・勧告する。

5-18　IHFが制定した公式記録用紙に準じ、平成28年度から改正した公式記録用紙を使用する。国内の競技会では併用して従来のランニングスコアを使用することが望ましい。ランニングスコアは競技役員席で記録し、記録席では改正した記録用紙を使用する。PCを利用したランニングスコアの記録様式、記録用紙も用意している。代表者会議で決定したチーム役員、プレーヤーのみが競技に参加、出場することができる。各試合の出場プレーヤー、参加チーム役員数は競技規則に定められた通りとするが、加盟団体が別に定めたときは、その規則に従う。

5-19　背番号は、国体以外は1から99までとする。国体での背番号は、1から12とする。

5-20　試合開始前に負傷したプレーヤーが出た場合、試合開始10分前までは交代することができる（IHFルールでも10分前までは交代できる）こととした。ただし、大会エントリーとゲームエントリーが同数の大会の場合は、交代するプレーヤーが存在しないので、交代はできない。

5-21　スコアラー補助員は提出されたメンバー表をもとに、公式記録用紙に転記する。O・TDは公式記録用紙にプレーヤー、チーム役員、その他の記入事項が正しく記入されたかを管理する。

5-22　試合開始10分前に、各チームの責任者が公式記録用紙に転記されたプレーヤー、チーム役員の記入が正しいものであるかを確認し、確認の署名をする。O・TDは、チーム責任者が署名することを管理する。チーム役員が、AからDの区分で記入されているかを確認する。スコアラー及びスコアラー補助員が記載後、複数回のチェックをするが、それでも誤記載、誤記入は起こり得る。最終的に、誤記載、記入漏れの責任は、確認を怠ったチーム責任者にある。

一方、誤記載、誤記入が判明した場合、適正な状況から再開する。競技中、誤った判定、判断で競技が行われ、途中でその判定、判断が誤っていたことが判明した場合、その時点で適正な処置をし、競技を再開する。プレーヤー、チーム役員にその責任を負わせることはない。競技規則からいえば、得点を認めた後にスローオフの笛が吹かれたなら、その得点は修正しない。

上記は、正しく登録されている場合であって、正しく登録していないプレーヤー、チーム役員を出場、参加させた場合は別に罰則を適用する。

5-23　プレーヤー・チーム役員は、競技に参加、出場する場合は、登録証を提出しなければならない。各試合に登録証を提出しなければ、試合に参加、出場することはできない。

5-24　本協会に登録が完了していれば、パソコンでデータを取り出すことは可能なことである。登録証の再発行は各チームの責任で行う。再発行業務を本協会を含め大会開催団体は行わない。

5-25 出場者リストおよび登録証は、各試合前に各チーム代表者がレフェリー、O・TDに提出する。第1試合の提出は、試合開始30分前（IHFルールでは1時間前）とし、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に提出する。

5-26 レフェリーとO・TDは、試合開始前までに、登録証によってチーム役員とプレーヤーの照合を行う。場内放送でプレーヤー紹介がある時は、その際にO・TDが照合する。

5-27 試合終了後、レフェリーもしくはO・TDは、両チーム代表者に登録証を返却する。裁定委員会に提訴されるプレーヤー、チーム役員がいる場合は、当該者の登録証はその場で返却せず、裁定委員会終了後、裁定委員会の処置に従い返却する。



5-28 試合に参加するチーム役員に、AからDの首から吊すカードを渡す。試合中、チーム役員に常に着用させておかなければならない。ハーフタイム中もつけておかなければならない。

5-29 カードAをチーム責任者とする。カードAをつけているチーム役員がいなければ、責任者として認められている行動はできないことを、O・TDからチームに伝えておかなければならない。国体は監督がカードAをつける。IHF規則では、プレーヤーとチーム役員の兼任は認められていないが、国内では兼任を認める。兼任プレーヤーが交代地域にいる時間が長いときは、ABCDカードを首からぶら下げていなければならない。試合に出場する場合はカードを交代地域においておかなければならない。

5-30 プレーヤーとチーム役員が兼任の場合、罰則は個人に適用するものとする。コート上での罰則はプレーヤーに、交代地域でカードを着用しているときはチーム役員に記録する。ただし、プレーヤーで適用され、あるいはチーム役員で適用された場合であっても、個人として警告を2回適用することはできないことから、繰り返しの違反は2分間の退場となる。

5-31 国際試合の場合、通訳を置くことができる。通訳席はベンチの後方に置く。通訳をすることが主業務となる。通訳以外のものの立ち入りを、制限しなければならない。

5-32 チーム役員は、本協会に登録されていなければならない。しかし、国内の特殊事情で、トレーナーが派遣役員等で、登録締め切り日までに氏名を特定できないことがある。その場合は、交代地域の外側に臨時トレーナー席を用意し、プレーヤーが負傷した場合、交代地域外のその場所で応急手当をすることを認める。そのトレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることはできない。O・TDは、応急手当の際の管理をする。この臨時トレーナー席に立ち入ることの出来る該当者は、トレーナー等の公認資格を有していなければならない。この臨時トレーナーの待機場所、行動要領については、本協会主催のすべての大会において適用され、交代地域に入る等、一切の例外は認められない。医師、看護師等は免許証を常時携帯していることはないと思われるが、身分証明書の提示は求めることが望ましい。

5-33 試合開始前に、交代地域規程に違反していないかを管理する。交代地域規程に違反していれば、その違反が正されるまで試合を開始させてはならない。正されなければ、レフェリーから罰則を適用させる。

5-34 チーム役員は、相手チームのプレーヤー（コートプレーヤー）とはっきり区別できる服でなければならない。5-17で記したように、試合開始前のトスの段階で相手チームのコートプレーヤーのユニホームの色は判明することから、試合開始前、あるいは開始直後にチーム役員と相手チームのコートプレーヤーのユニホームの色が同じ場合、レフェリー、O・TDは、チーム役員に色の異なる上着の着用を指示する。正さなければ交代地域に留まることは許されない。イラストのような状態であれば、O・TDはチーム役員の服装の色を変えさせなければ交代地域にいさせてはならない。右の写真は世界選手権で優勝したノルウェーのチーム役員が相手であるルーマニアのコートプレーヤーのユニホームと同色であったためビブスを着用した。世界選手権ですらこのような対応をすることから、本協会の大会でも躊躇せずに実行しなければならない。



5-35 コーチングゾーンはセンターラインから3.5m（チームベンチの始端）から終端までとし、それより記録席に近づけるのは下記の条件のみとする。

1）チームタイムアウトを請求できるのはチーム役員だけである。グリーンカードを提出するときは、タイミングを計ることは許されない。

2）チーム責任者だけがO・TDを含み、記録席補助員と話しをすることができる。

5-36 試合開始前に、レフェリー、記録席補助員との打ち合わせを綿密にしておく。

1）計測の開始、停止の合図

2）得点の合図

3）罰則の合図

4）その他の事項

5-37 本協会が主催・共催する大会では、試合開始の挨拶時、O・TDを含めて記録席補助員、モップ係は起立し、挨拶をする。

5-38 放送席係員は、業務優先とし起立する必要はない。

5-39 コート脇に担架を用意する。コート内で軽傷程度だと担架に乗らないプレーヤーが多いことから、車いすを併せて用意し、状況に応じて対応する。担架は準備しているが、どのようにして使えるのかがわからないとか、誰が担当するかを決めていないことがある。事前に決定をするようにしておく。





5-40　試合前の挨拶は、コート中央にサイドラインと平行に横一列に並び、観客、ベンチに対して礼をして始める。全国大会では、プレーヤーの紹介を含めてベンチから、あるいはコート外から入場する方式を取り入れても良い。

6　試合開始後



6-1　競技時間は競技規則に従う。大会で定めた規則が別にあれば、それに従う。競技時間は、加算式の電光表示板を使用する。電光表示板がない場合は、記録席の上にコート内から見える、卓上時計を用意する。卓上時計がない場合は、ストップウォッチを用いる。公式電光計時が機能しなくなったときは、可能な限り、用紙等による時間掲示をし、チーム関係者、観客に競技時間の経過がわかるよう配慮する。



6-2　レフェリーの試合開始の合図に合わせて、タイムキーパーが適切に時計を操作していることを管理する。時計を進めるとき、止めるときは、手を高く上げて確認の合図をする。



6-3　競技終了の合図は、ブザー、または笛で行う。音が適切に競技者、観客にわかるよう管理する。

6-4　試合途中のレフェリーの各種の合図を、記録席補助員が対応できるよう管理する。レフェリーが得点の合図をした時、手を高く上げ、確認の合図をする。警告となるとき、レフェリーがプレーヤーに警告を与える。レフェリーがそのプレーヤーを示し、記録席補助員がプレーヤーの番号を特定したときに、イエローカードを高く上げて合図する。番号がわからなければ、イエローカードは上げない。記録席補助員がイエローカードをあげなければ、記録席ではプレーヤーの番号がわからないことを意味しているので、レフェリーがさらに明確に、どのプレーヤーであるかを示す。退場、失格も上記の要領で対応する。退場の場合、再開の合図の際、タイムキーパーは退場を意味する２本指を用いて合図する。以上の点は、試合開始前に、レフェリーと打ち合わせをしておく。最近、TDが「警告」、「退場」等のプラカードを掲げる光景を目にするが、記録席補助員の業務であり、O・TDはこれらの行為はするべきでない。

6-5　試合中、交代地域にスペースがあれば、その地域内での短時間のウォーミングアップは許される。しかし、ボールを持ってのウォーミングアップは禁じられている。ベンチに座ってボールを持つこと、触ることも許されないので、試合開始後、試合が行われている間、後半開始時に、ボールが収納されていることを管理する。違反している場合には正さなければならない。ウォーミングアップを中断するようであれば、座るように指示をする。ウォーミングアップ中にコート内に向かって指示を出すようなとき、試合の判定に反応して大きな声もしくはジェスチャーをしたときは、ウォーミングアップを中断したと見なし、その後ウォーミングアップを再開したとしても直ちに座るよう指示をする。指示に従わない場合はスポーツマンシップに反する行為として、レフェリーを呼び、罰則を適用させる。







6-6　試合開始後遅れてきたプレーヤー、チーム役員は、O・TDが承認することにより、試合に出場、参加できる。承認されるためには、出場、参加資格があり、事前に提出されたメンバー表に記入された者でなければならない。



6-7　記録用紙に記載されていないプレーヤーや、参加資格のないプレーヤーが競技に出場した場合、当該プレーヤー及びチーム責任者に、レフェリーが罰則を適用する。O・TDが管理する。



6-8　試合途中、O・TDは交代地域に違反がないかを管理する。違反があれば、O・TDがレフェリーに知らせ、レフェリーが罰する。O・TD以外の役員が違反に気がついたときは、次の中断の時にレフェリーに知らせ、レフェリーが罰する。

6-9　不正交代、不正入場その他交代地域の違反が確認されたとき、立ち上がり笛を１回吹きレフェリーに知らせる。不正交代の違反があったときは、アドバンテージルールを適用せず、直ちに競技を中断する。不正入場でプレーヤーが余計にコートに入った場合、複数である場合は常に最初に入ったプレーヤーを退場とする。不正入場の際、罰則の適用するプレーヤーが特定できない場合、O・TDまたはレフェリーは、チーム責任者に違反したプレーヤーを指名させる。チーム責任者が指名を拒否した場合、O・TDまたはレフェリーは、コート上にいるプレーヤーから１名を指名する。ただし、７人攻撃のような、交代のゴールキーパーがコート内にいる時にはその交代のゴールキーパーを指名することは







できない。

近年、交代地域内でのチーム役員、プレーヤーのスポーツマンシップに反する行為が目立つ。O・TDは、このような時は当該者のそばに行き注意を与える。注意をしたにもかかわらず是正されない時は、レフェリーに合図し、レフェリーから罰則を適用させる。最近のO・TDの任務の最重要業務である。

スポーツマンシップに反する行為には、判定に対する不満を表すジェスチャーをしたり、大声を出す、相手チームのみならず自チームのプレーヤーに悪態雑言を浴びせる、観客に対して不満の表現をしたり、大会・競技役員を含めて観客に不当な表現を用いたりすることを含む。O・TD自らがプレーヤー、チーム役員に罰則を直接与えることはできない。笛の合図にあわせて、タイムキーパー補助員が計時装置の時間を止める。この笛の合図はO・TDだけでなく、記録席補助員も吹くことができる。記録席補助員は常に笛の合図にあわせて時計を止める習慣を身につけていなければならない。笛の合図があったにもかかわらず、時計が止まらない場合は、O・TDは直ちに時計を止めるよう、さらに大きな動作、行為をもって指示をする。時計を止めた状況及び再開方法について、レフェリーに適切に助言・勧告をする。

6-10 プレーヤーが水分補給やタオル使用のために交代エリアラインを通らず交代地域に戻ったとしても、罰則の適用はしない。水分補給できるのは、自分のチームの交代地域だけである。退場の判定の際、交代エリアラインを通らず、潔く交代地域に戻った場合は罰則を付加しない。写真のようにわずかにコート内に足を踏み入れているようなときは、不正入場としない。交代地域違反があった場合、再開は相手チームのフリースローで再開する。









6-11 試合途中に、得点、罰則の数を管理する。記録席補助員は、得点したプレーヤー、罰則を受けたプレーヤーが誰であるかを特定しなければならない。レフェリーと記録席補助員の連携がとれるよう管理する。

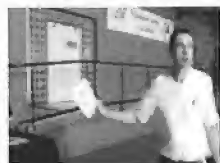
6-12 プレーヤーやチーム役員は、原則として自チームの交代地域に留まるものとする。しかし、チーム役員が交代地域を離れ別の場所へ移動したときは、チームを指揮し管理する権限を失う。その権限を再び得るためには、交代地域に戻らなければならない。交代地域外で違反行為があった場合、交代地域に戻った時罰則の適用を与える。この場合も、O・TDはレフェリーを呼び、レフェリーから罰則を与えなければならない。チーム役員は原則として座っていなければならない。ただし、原則としてチーム役員1名のみが戦術的な指示を出すことや、治療を目的としてコーチングゾーンの範囲内で動くことが許される。

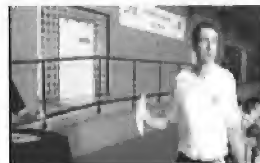
6-13 試合中、許可した者を除き、いかなる者でも交代地域に出入りさせてはならない。

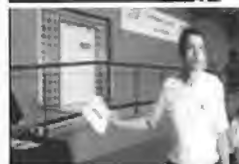
6-14 大会が認めたテレビ関係者は、チームタイムアウトの時間だけ交代地域の付近で報道活動することができる。また、コート内から、ベンチの活動を撮影することが許される。その他の時間帯の報道活動は、交代地域内での取材活動は許されない。

6-15 チームタイムアウト請求カード（グリーンカード）は、チーム役員が、コーチングゾーンを離れて記録席に近づいてきたとき、受け取ってよい。昨年度までは、記録席の上に置かなければならないとしてきたが、受理の仕方を変更する。グリーンカードを提出するときは、タイミングを計ることは許されない。右の写真のように、コーチングゾーンを越えてグリーンカードを出さない状態の時は、受け取らない。











また、グリーンカードを出したり引っ込めたりするような状態の時は、スポーツマンシップに反する行為としてレフェリーを呼び、罰則を適用するよう指示する。



グリーンカードは、チームアウトを請求するときにのみ持つことができる。原則として、ベンチに置いておかなければならない。

プレーヤー兼任のチーム役員がカードを提出する場合、ABCDカードを首からぶら下げるか、手に持っていなければならない。チーム役員登録をしていないプレーヤーはグリーンカードを提出する権利がなく、受け取ってはならない。

各チームは最高3回のチームタイムアウトの請求ができる。ただし、延長戦は含まれない。請求できるのは前半、後半それぞれ最高2回までである。それぞれの前後半で2回のチームタイムアウトを請求する場合、1回目と2回目の間には、必ず相手チームがボールを所持する時間帯が必要となる。



グリーンカードは3枚準備する。それぞれのカードには1、2、3と番号をつけ、明確にしておく。前後半に最高2回まででしか請求できないことから、前半には、1と2の番号がついてあるカードを、配布する。前半1回も使用していな

いチームからは、1のカードを回収する。また前半に2回使用したチームには、3のカードのみを配布する。本来使用しなければならないカード番号でなくても、申請は認められる。チームタイムアウト終了後、正しいカード番号に戻す。試合の後半残り5分間は、1回のチームタイムアウトしか請求できない。後半25分を経過し、2枚のカードがある場合は、番号の大きいカードを回収し、1枚だけ残す。チーム役員がカードを常に手に持っていてはこの回収ができない。カードをベンチに置いておかなければならない理由の一つである。後半の25（55）分が経過し、TDがカードの回収を完了していないとしても、25（55）分が経過してチームタイムアウトが請求されれば、その段階で残りのチームタイムアウトは請求できない。

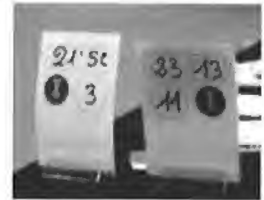
6-16 チームタイムアウトが請求されたら、直ちに笛を吹くとかブザーを鳴らすなどして合図をし、公式表示時計を止める。レフェリーがチームタイムアウトの合図をしたときから、1分間（50秒）の計測を開始する。同時にグリーンカードを受け取ったTDは、グリーンカードを持ち立ち上がり頭上に高く掲げ、もう一方の腕で請求した交代地域を指し示す。チームタイムアウトが請求された際、1分間の計時を管理をして、50秒経過時の笛の合図を管理する。その間、必要であればレフェリーとスコアラーは得点、罰則の確認をする。O・TDはレフェリー、記録席補助員、もしくは、両者とともに確認する。チームタイムアウトの間、TDが立ち上がり交代地域のそばに行く事例を見かけるが、TDが立ち上がるということは何か対応することが起きたと思わせる。必要があれば立ち上がってよいが、むやみに立ち上がる必要はない。チームタイムアウトの間、登録されたプレーヤー、チーム役員はコート内に入ることができる。ベンチ前を基本とし、ゴールキーパー等のミーティングがあれば1カ所でなくてもかまわない。しかし、おおむねサイドラインから10m以内の範囲で行うべきである。プレーヤーもしくはチーム役員がセンターライン付近を含み相手ベンチの方向へ行くことはやめさせなければならない。注意をしたにもかかわらず反する行動をするならば、スポーツマンシップに反する行為として罰則を与えなければならない。また、観客席からの指示を受ける行為はやめさせなければならない。

6-17 チームはパッシブプレーの合図が出たときに、チームタイムアウトを請求し、少しでもパッシブプレーの時間を引き延ばそうという手段をとることがある。O・TDはボール所持がどちらのチームであるかを確認しておき、適切に対応する。

6-18 試合時間の管理・決定はレフェリーの責務であるが、O・TDの職務として、記録席補助員の管理と指導の責務がある。公示時計で表示していても、不測の事態に備え、別途に手元のストップウォッチで試合時間を計測しなければならない。

6-19 退場時間を管理する。退場となったプレーヤーを、ベンチに座らせるよう管理する。

6-20 退場者は、退場者電光表示板で表示する。表示が「0」になれば入場することができる。退場者電光表示板を用意できない場合、各種トラブル等で退場者電光表示板が使用できないときは、用紙の両面にプレーヤーの背番号、入場許可時間を記入し、記録席上に掲示する。用紙を用いる場合、複数のプレーヤーが退場している場合は、明確に複数名退場していることがわかるように、IHFの写真のように2枚並べるとか、表示に工夫をするべきである。写真のIHFの用紙は、ラミネート加工をし、何度も書き変えられるホワイトボードマーカーペンを用いている。



退場時間が経過し、入場する際の判断は、チーム、プレーヤーの責任による。不適切な入場はさらなる罰則が適用される。記録席から入場許可の合図をすることはなく、また、入場許可を求められても回答しない。

6-21 チーム役員が退場となったとき、退場者電光表示板の番号表示は入力しない。記録席の上に紙で掲示するときは、AからDと表記し、プレーヤーの入場時間を掲示する。

6-22 失格となったプレーヤーを速やかに交代地域、競技場から退出させるよう管理する。競技場から退出させるとは、競技に影響のない場所に移動させるということである。失格となったプレーヤー・チーム役員は直ちにコートや交代地域から去らなければならず、その後チームといかなる接触もしてはならない。競技の再開後に失格となったプレーヤー・チーム役員のさらなる違反を認めたときは、報告書を作成しなければならない。さらなる違反があっても、コート上のプレーヤーを減らすことはできない。失格となったプレーヤーがコート内に入った場合も、コート上のプレーヤーを減らすことはできない。

失格には、報告書を提出する失格（DR:disqualification with report）と、報告書を提出しない失格（D:direct disqualifications）がある。失格を適用したレフェリーは、報告書を提出するかしないかをO・TDにその都度申告する。申告がない場合は、O・TDがその旨を確認する。

6-23 大会でドーピング検査を実施する場合は、レッドカード席を設ける。その場合失格のプレーヤーはコート外周に用意したレッドカード席に着席していなければならない。プレーヤーの管理はアンチ・ドーピング・コントロール班が行う。試合終了後、ドーピング検査の対象者となることがある。失格には「一発失格」及び「3回目の退場」を含む。3回目の退場者がドーピング検査が必要か否かは、アンチ・ドーピング・コントロール班の決定による。



6-24 試合中、コート内外を問わず各種トラブルが起きた場合、O・TDはレフェリーと協力してトラブルを早期に解決できるように努力する。この行動、対処は速やかに、しかも迅速に行わなければならない。

6-25 試合中、特異な状況で試合が中断した場合、O・TDが直接放送設備を使用して、観客に対して説明することが望ましい。O・TDが直接行動し、処理に時間がかかるときは、会場アナウンサーに説明させてもよい。

6-26　前半終了間際のプレイに注意を払う。特に、終了直前のシュートが得点となるかならないかの最終判断はレフェリーがするが、O・TDはレフェリーに適切に助言・勧告をする。

6-27　前半終了、または、試合終了後でも、試合時間内の違反に対しては罰則を適用しなければならない。常にレフェリーの判定に注意を払い、競技規則に合わない場合は、助言・勧告する。

6-28　前半終了間際、あるいは、試合終了間際になると、次の試合のプレーヤーがコート近くにきて、各種の準備活動を始める。試合に影響がありそうなウォーミングアップ、ボールの使用は禁止する。



6-29　いわゆる「最後の一投」を行う際、負傷したあるいは負傷を訴えたGK以外の防御側の選手の交代は、許されない。また、攻撃側の最後の一投をするプレーヤーは、直ちにその位置に着かなければならない。防御側プレーヤーの番号をメモすると、混乱の原因を減らせる。

6-30　試合中、出血して血がユニホームに付着し拭き取れない場合は、ユニホームを交換しなければならない。その場合、番号は異なってもかまわない。競技中に外傷等が発生した場合、出血を認める場合はコート内に留まることは許されない。レフェリーが交代地域に行くことを指示する。レフェリーが出血等に気がつかないときは、TDがレフェリーに知らせる。止血の確認がなされた後、競技参加が可能となる。骨折、脱臼といった整形外科的外傷、脳震盪、心臓震盪、その他競技に出場することでプレーヤーの健康が明らかに阻害されると判断できる場合は、医師、専門家の判断を参考にして、チームの判断で出場の可否を決定する。誰が見ても明らかに競技することが適切でないと判断される場合は、競技に参加することができない。

6-31　モップ係は、コート上の汗、水滴を拭くために業務をする。プレーヤー等が出血し、その血がコート上についたときは、感染予防のため、通常のモップ、雑巾で拭いてはならない。モップ係または専任係は、直接血に触れないように、ゴム手袋を着用しなければならない。一度使用したゴム手袋、雑巾はその都度廃棄のための袋に入れ、感染予防の処置をした後、医療用廃棄物として廃棄しなければならない。

6-32　試合中、ユニホームが破損し、競技を続行できないと判断されるときは、別のユニホームに着替えなければならない。その場合、番号は異なってもかまわない。

6-33　交代地域では、チーム役員、プレーヤーのあらゆる通信機器の使用を禁止する。iPadのような記録分析用の使用は男子の世界選手権で見られたが、現時点、IHFに確認を求めているが回答がなく、現時点での使用を禁止する。通信機器ではないが、メガホンの使用を禁止する。全国大会、ブロック大会を除き、都道府県大会、地区大会のように、チームにスタッフが少ない場合、競技に影響ない範囲で交代地域でビデオ、写真撮影を許可してよい。

6-34　オウンゴール（以下OGという。）の場合、OGとなり得点したチームの得点欄にOGとして記録する。個人の得点にはならないので、出場プレーヤーの記載のない欄に数字を得点として記録する。さらに、特記事項の欄にOGがあったことを記載する。



6-35　プレーヤーが負傷して救護が必要な場合、レフェリーの指示に従って、救護するためにプレーヤー、チーム役員を含めて関係者が2名コート内に入ることが許される。試合再開をスムーズにするために、O・TDまたはレフェリーの指示によって、交代するプレーヤーを予めコート内に入れることができる。この場合には、短時間、3名になっていることがある。

6-36　特別な状況が発生した場合、例えば、観客がゴールに向かっているボールを阻止し、本来得点となりそうな状況であると判断したら、得点を認める。また、たとえば速攻のような場合、両レフェリーが、違反の事実を見ることができないような状況になった場合、TDは得点後に、レフェリーに失格相当の違反の事実を知らせ、罰則を適用するよう指







示する。

6-37 試合中、観客席等から競技を行っている関係者に対してレーザーポインターの照射が認められたとき、IHF では下記のように対応していることから、本協会でも同様の手続きを行う。照射に気がついた関係者が O・TD に報告し、O・TD は会場アナウンサーを通じて照射をやめさせるように放送をする。照射が行われるようであれば、プレーヤー等関係者の健康を考慮して無観客試合とすることもあり得ることを放送する。

7 ハーフタイム

7-1 ハーフタイムを 15 分以内とし、大会で時間を定める。ハーフタイムのコートの使用は、国内では、原則として次の試合のチームの練習に使用する。

7-2 レフェリーとともに、審判控え室で競技全般に関する反省、後半に備えての準備をする。レフェリーに対しての指導は審判委員会の責務であるが、必要があれば審判委員会と共同してレフェリングの流れに影響の少ない範囲で助言・勧告を与える。前半のレフェリングの流れを変えるような助言・勧告は、厳に慎む。

7-3 ハーフタイム開始時にレフェリーと記録席補助員、O・TD が正しくハーフタイムの時間表示等がなされているかを確認する。

7-4 ハーフタイムの時間を管理する。O・TD、記録席補助員が席を離れる場合、後半が正確な時間に始められるよう管理する。

7-5 各チームは交代地域を交代する。交代地域のチーム名表示をしている場合は、正しく置き換えたかを管理する。

7-6 電光掲示板によるチーム表示は、前半後半で左右の表示を変えない。

7-7 ハーフタイム終了 1 分前に公示時計を止め、後半の試合時間を設定するよう管理する。

8 延長戦

8-1 延長戦の実施については、各大会で定める。正規の後半戦を終了した段階で同点で勝敗が決しない場合は、延長戦を行う。第 1 延長戦を行ってもなお同点で勝敗が決しない場合は、第 2 延長戦を行う。

8-2 レフェリーがトスを行う。

8-3 休憩時間を管理する。

8-4 交代地域の変更があれば管理する。

8-5 延長戦のハーフタイムは 1 分間である。休憩後に円滑に試合が始められるよう、審判員と協力して対応する。

9 7m スローコンテスト（7mTC）





9-1 延長戦を行い同点の場合は、7mTC により勝敗を決する。7mTC は下記の要領で実施する。

9-2 全国大会は 5 名で行う。後半試合終了後、7mTC を行うプレーヤーのリストをレフェリーに提出する。大会によっては 3 名で行っても良い。また、大会日程により 3 名方式、5 名方式を平行して採用しても良い。7mTC の登録・記録用紙を作成した。

9-3 両チームのプレーヤー、チーム役員は、使用するゴールの反対側のコートのセンターラインから 4.5m 離れた仮想ライン上に整列する。

9-4 先投、後投をコイントスで決定する。

9-5 両チームのスローするプレーヤーは、4.5m の整列ラインから交互にスローに行く。

9-6 交互に 7m スローを行い、得点の多いチームが勝利する。なお、スローの結果が 3 対 0、もしくは 4 対 1 などのように途中で勝敗が決まれば、その時点で 7mTC を終了する。

9-7 7m スローが同点の場合は再度 5 名により 7mTC を行う。2 回目以後は 1 組目からサドンデス方式とする。2 回目は先投と後投を入れ替える。さらに同点の場合は、3 回目の 7mTC として再度コイントスをして先投・後攻を決定する。以下、10 人、15 人が終了して同点の場合、11 人目にコイントス、16 人目に先投、後投の交代を同様に繰り返す。守備についていないゴールキーパーは、交代地域と反対側の 7m ライン側方のサイドライン外に位置する。

9-8 7mTC を行う際、登録されてないプレーヤー、罰則を適用されているプレーヤーは、参加資格がない。5 人制で実施する場合、状況によっては 5 人参加できない場合がある。

その場合は、1 人少なければ 5 回目のスローが失敗した記録にする。補充はできない。

10　試合終了後



10-1　公式記録用紙に記録された事項が、正しく集計し記録されていること確認をする。確認は O・TD の記録と公式記録用紙を照合し、正しければレフェリーに確認の署名をさせるよう管理する。

10-2　すべての事項が記入され、O・TD が最終確認をした後、O・TD が署名する。

10-3　記録用紙は主催者用として大会本部に提出する。2 枚目を本協会提出用として大会本部に提出する。3 枚目、4 枚目は各チームに 1 部ずつ配布する。記録用紙が速やかにチームに配布できるよう、大会本部に提出できるよう管理する。

10-4　O・TD 報告書の必要事項を記入し、競技委員長に提出する。特に、裁定委員会を開催する有無を、各レフェリー、競技委員長に確認して記録する。

10-5　その試合で特記事項があれば、TD 報告書に記入する。

10-6　プレーヤー、チーム役員を裁定委員会にかける必要がある場合、当該者の登録証は返還しない。

10-7　ドーピング検査に選定されたプレーヤー、もしくはドーピング検査を実施する大会で、失格のプレーヤーが出た場合、登録証は返還せず、ドーピング班に渡す。

11　裁定委員会・上告委員会

11-1　各大会に裁定委員会・上告委員会を設置する。裁定委員会は、競技委員長、競技副委員長、審判長とする。なお、必要に応じてプレーヤー、チーム役員、レフェリー、O・TD 等の関係者を同席させ、事情を聴取することがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、原則として当日に裁定をし、関係者に通知する。その結果は、翌日には各会場に公示する。

11-2　交代地域規程に違反する行為があった場合、あるいは、特別な出来事があった場合、O・TD は速やかに失格に関する報告書、兼裁定委員会開催要望書を作成し、競技委員会委員長（裁定委員会委員長）に提出しなければならない。

11-3　必要があれば、各試合担当 O・TD は裁定委員会に出席し、審議に加わる。

11-4　追放という罰則がなくなり「暴力行為」は「失格」+「報告書」。そして、さらなる「懲罰の付加」となる。一発失格の場合の裁定委員会は、報告書の提出の有無により開催する。

11-5　裁定委員会の審議対象者は平成 20 年度から、プレーヤー、チーム役員、レフェリー、大会関係者による重大な過失を伴う行為、処置も裁定委員会の審議の議案に含まれている。平成 26 年度高校選抜大会の事例では、競技委員長が TD 任務を従事していたことから、競技委員長（TD）及び同 TD の大会中の業務停止を裁定した。

11-6　異議申し立ては試合終了後 1 時間以内にチーム責任者のみができる。さらに、チーム責任者は試合終了後 2 時間以内に、理由を示した文書を提出しなければならない。

11-7　裁定委員会は、試合終了後 5 時間以内に裁定の決定を行う。

11-8　チーム関係者は、裁定委員会の決定に不服がある場合、通知書を受理してから 2 時間以内に文書で上告することができる。上告があった場合は大会上告委員会を開催する。

11-9　上告委員会は大会委員長、大会副委員長、総務委員長および大会委員長が指名した委員で構成する。大会上告委員会は上告の文書を受理してから 4 時間以内に最終決定を行う。この決定は最終のものである。

11-10　異議申し立て、上告についての納付金は決定次第公報する。

12　突発的事項の対処方法

12-1　突発的事項が発生し、競技時間が終了していなかった場合、O・TD は試合を終了させなければならない。

12-2　IHF の規定では、混乱によって試合当日に試合が続行できないと判断された場合は、観客の有無にかかわらず、翌日（別の日）に同スコア、同じ残り時間、中断時の状況から開始しなければならないとしている。日本協会も、原則としてこの方法で対応する。

12-3　大会、各試合の続行に関して特別な判断が求められる場合は、大会委員長、競技委員長および日本協会代表者が

協議し、決定する。

12-4　得点、罰則の記録ミスが試合中に判明した場合は、その時点から正しい状況で再開する。試合終了後に記録ミスが判明した場合は、勝敗に関する場合は相応しい状況から再試合をしなければならない。平成26年度の選抜大会のように、試合終了後であっても得点記録が不適切であり、修正した結果同点であった場合は、延長戦を行わなければならない。試合中に退場しなければならないプレーヤーが何らかの理由によって退場せずに試合に出場し続けたことが判明した場合、その時点から退場を適用する。出場したことに対する責任はレフェリー、O・TDにあり、プレーヤーにそれ以上の罰則の適用はしない。事実が判明する間にそのプレーヤーが得点をあげた場合は、その間のすべての記録を認める。

12-5　大会危機管理として、冷静に行動できるよう、危機管理マニュアル通り運用が行われるよう管理する。

13　その他

13-1　試合開始までの時間は、各大会によって決める。プレーヤー、チーム役員、レフェリー、O・TDの紹介を放送でするときは、上記の関係者は全員紹介しなければならない。

13-2　試合終了後はコート中央でサイドラインと平行に並び、ベンチ、観客がいれば反対側に挨拶をする。その後、すれ違いながら握手またはハイタッチをする。観客の有無を問わず、相手チーム役員もいることから国内でも積極的に実行する。

14　平成28(2016)年7月1日実施の競技規則改正に関連して

14-1　IHFが正式に通知してくる前の段階での本協会での実施要領を下記に列挙する。平成28年度に先行して競技規則を採用する大会では下記の要領を参考にすること。

14-2　コートプレーヤーとゴールキーパーの交代は、5-9に示したようにこれまで通り穴あきのシャツ、ビブスの着用が認められる。



14-3　ゴールキーパーが不在でコートプレーヤー7人の出場が認められる。7人攻撃をしている際、インターセプト等で相手チームボールになったとき、明らかな得点のチャンスを罰則適用の違反行為があったときは、罰則の適用及び7mスローを適用する。

14-4　いわゆる逆速攻の際の不正交代はO・TDが状況を的確に把握しなければならない。

14-5　プレーヤーが負傷した場合、レフェリーの許可がなければチーム役員等のコート内への入場はできない。レフェリーの許可の有無をO・TDは的確に判断しなければならない。



14-6　入場の許可があった場合、当該プレーヤーは治療の有無にかかわらずその後自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。O・TDはその3回を計測しなければならない。1回の攻撃についての考え方は、パッシブプレーの際の考え方と同じである。その間、チームタイムアウトが申請された場合でもその攻撃回数は継続される。3回の攻撃の判断はO・TDが行う。IHF審判部は非公式ではあるが、退場者カードと類似したカードを記録席上に掲げ、3回の攻撃を待つプレーヤーに明示できるようにしたいと述べている。

14-7　パッシブプレイの考え方は従来と同じである。最大6回のパスが許される。レフェリーの判断に任される。

14-8　試合終了間際30秒の違反については、失格、報告書付きの失格およびスポーツマンシップに反する行為が起きた場合は全て7mスローとなる。終了間際とは正規の競技時間だけではなく延長戦も含んでいる。

14-9　報告書が必要な失格を適用する際、レッドカードを提示した後新たにブルーカードの提示が適用される。

強い日本代表になるために

―ドイツでの経験から考える―



植松 伸之介

世界と戦いメダルを狙う「強い日本代表」になるためになすべきことは、ストロングポイントをさらに磨くことや大きい選手に当たり負けしない体作りなどあると思いますが、私が考えるキーワードは「シンキング」と「プライド」です。

私は約16年間、ドイツで選手・監督として活動してきました。2000年にドイツに単身渡りConcordia Delitzsch（コンコルディア デーリッチ）という当時ブンデスリーガ2部のクラブのセカンドチームから活動をスタートし、02年のシーズンにトップチームへ昇格しプロ選手（ブンデスリーガー）になる夢を実現してから、ブンデスリーガ1部昇格や途中2度の移籍を経験し、13年のシーズンまで選手として活動してきました。

その後ZHC Grubenlampeというクラブの監督を務めた後、今年4月に日本へ帰ってきました。帰国後は順天堂大学大学院で学びながら同大学ハンドボール部のお手伝いもさせていただいており、その傍ら日本各地での講習活動や、日本とドイツのハンドボールの架け橋となるような活動もしています。

今ドイツでは、ヨーロッパ選手権の優勝もあってハンドボールがブームになっています。ちょうど日本のラグビーブームに似ているような雰囲気です。元々ハンドボールはサッカーに次ぐ人気スポーツとしてブンデスリーガで1万人以上観客動員する会場もあり、テレビ中継も代表の試合はもちろん、リーグやカップ戦も毎週中継されています。愛国心が強い国民性もあり、世界選手権よりもチーム力が拮抗していてレベルが高く、勝つのが難しいと言われているヨーロッパ選手権で優勝し“強いドイツ”に改めて国民が酔いしれている感じです。

日本のハンドボールを国内でメジャー化するツールとして欠かせないのが、「強い日本代表！」であると思います。いまさらこの件をここで書く必要もないと思いますが、日本で一番メジャーなスポーツイベントであるオリンピックに出場することが関係者・ファンの方々の願いであり、メジャー化への第一歩であることは間違いないと思います。東京オリンピックへの出場はほぼ確実である中で、日本のハンドボールが2020年までの残された短い時間の中で、世界と戦いメダルを狙う「強い日本代表」になるためになすべきことは、ストロングポイントをさらに磨くことや大きい選手に当たり負けしない体作りなどあると思いますが、私が考えるキーワードは「シンキング」と「プライド」です。

ドイツでは「ハンドボールはインテリジェンススポーツだ」と言われます。サッカー関係者には怒られてしまうかもしれませんが、人気スポーツのサッカーと比較して「サッカーは誰でもできるけど、ハンドボールは頭が悪くてはできない」という表現をする人がよくいます。

ハンドボールはサッカーに比べ狭いフィールドの中で、常に素早い状況判断と考えて行動に移す能力が特に要求されるスポーツで、たとえ想定外の状況になったとしても選手自ら考えその状況を打破する能力が求められます。ドイツで私が経験してきたトレーニングは通常1時間半から2時間で終わってしまう短いものですが、常に考えることを求められ、そして緊張感のある厳しいものでした。日本で多く行なわれているトレーニングに比べると短い時間の中で、シーズン中のトレーニングでは特にそうですが、肉体的にはそれほど負荷がかかっていなくても終わった時にはなぜかグッタリ疲れていることがよくありました。調整の意味で流してやっている選手はほぼ汗をかかずに終わっている人もいるほどのトレーニング内容ですが、その日のテーマに沿って組み立てられたトレーニングプランで、ウォーミングアップの段階からロジカルに展開していくトレーニングは常に考えることを求められ、最後のまとめとして6対6やゲームの戦術的内容になってくると、ある一つの局面に対して選手はどう考えてどう動くべきか、どのような選択肢があり、それのどれを選択することがその局面にはベストなのかを、何度もプレーを中断しながら徹底的に選手に考えさせます。

そのような場面で、試合では戦術の最終決定権はもちろん監督にありますが、トレーニングでは監督の意見をトップダウンで押し付けることはなく、選手自らが様々な意見を出し合いながらチームの戦術として組み立てられていました。時には意見の衝突もあり、1時間半のトレーニングの中では結論が出ずにロッカールームまでそのテーマを持ち込み、シャワーを浴びながらとかビールを飲みながら延々と続くこともありました。

日本のテレビCMで「慣れることは楽だ、考えなくていいから」というフレーズを耳にしたことがあります。トレーニングにも同じことが言えると感じました。反復練習やルーティーンによって習得される技術や戦術ももちろんあると思いますが、それが慣れになってしまうと選手は考えることをやめてしまい、トレーニング自体が意味を持たなくなってしまう可能性

が出てきます。選手は自ら考え行動に移し、それをチームに還元し、さらに意見を交し合うという環境から選手に責任感が生まれモチベーションにも繋がるのではないかと考えています。そして、それを導くのが監督の仕事である「コーチング」の本質であり、このような環境でトレーニングを積んだ選手は、どんな厳しい局面でも自ら考えて打破できる精神的にも技術的にも優れたプレーヤーになるのではないかと思います。

昨今ヨーロッパのトップレベルの試合やトレーニングの映像を簡単に見ることができ、戦術や方法を取り入れている日本の監督・コーチの方も多くいらっしゃると思います。私も講習会などをやらせていただき、ドイツで経験して学んできたトレーニング方法や戦術を紹介しています。その時にいつも必ず言うのは、「この戦術や方法が必ずしも正解ではなく真似をすれば強くなる（上手くなる）というわけではありません。なので、監督・コーチが指導してくださる日々のトレーニングの中で、一つのヒントとして考えてください」ということです。

私自身“ドイツ式”のトレーニングでスキルアップすることができ、ブンデスリーガで長年プレーすることができたのは事実ですが、そこには“日本式”のトレーニングで培ったものがベースになっていることを強く実感しています。私はドイツでの活動の中で「考える」ことの大切さに気づき、“日本式”と“ドイツ式”の融合が上手くできたことが結果に繋がったのではないかと考えています。海外の新しい珍しいものに興味を持って飛びつく風潮があるように感じます。しかし、まずは日本の長短所をもう一度見つめ直し、なにをどう取り入れ、さらにそこから考えて（考えさせて）新しいものを作っていくことが日本ハンドボールのレベルアップに繋がり、『Japan Way（日本流）』を生み出すチャンスなのではないかと考えています。

長期間海外で生活していると必然的に自分が日本人だということを意識させられる機会が多くなります。特にスポーツの現場（特にアウェイの会場）では、未だに心ない人種差別を意味する言葉を受けることが多々あります。まだ言葉が分からないうちは理解できないのですが、語学が上達するにつれてそれにストレスを感じるようになり、当然日本を馬鹿にされれば頭にきます。私自身、特に愛国心が強い方ではないと認識していましたが、そんなことを繰り返しているうちに自然と日本を愛し、誇りを持つようになり、僭越ながら日本代表として誇りを持って戦う気持ちで活動していました。

私自身、普通に日本で生活していればこのような感覚は目覚めなかったでしょう。しかし、スポーツをしていれば海外の選手と交流する機会もあり、日本代表の選手であれば、さらにそれは多くなります。ナショナリズムを語るつもりは毛頭ありませんが、どのカテゴリーやレベルであっても『日本代表』を常に意識することがもう一つのキーワード「プライド」であり、日本のハンドボールが今後世界のトップレベルと肩を並べ、オリンピックでメダルを獲得するためには不可欠であるのと同時に、競技普及や若年層のレベルアップなど全てのベースになるのではないかと、経験を通して感じました。

以上、「強い日本のハンドボール」を育成する上で必要不可欠であると私が考える二つのキーワードについて説明してきました。しかしこの二つはトップレベルの育成だけに限らず、ハンドボールをプレーするすべての人たちにおいても必要な要素であると考えています。自ら「シンキング」し「プライド」を持ってハンドボールに携わっていくことが、日本において裾野を広げレベルアップさせていくと確信しています。

この春の関東学生リーグ戦で、順天堂大学ハンドボール部はお陰様で1部リーグ復帰を果たしました。多くの方々のサポートに感謝しながら、私自身もさらに見聞を広めハンドボールを探求し、選手と共に成長できればと考えています。

その時にいつも必ず言うのは、「この戦術や方法が必ずしも正解ではなく真似をすれば強くなる（上手くなる）というわけではありません。なので、監督・コーチが指導してくださる日々のトレーニングの中で、一つのヒントとして考えてください」ということです。



クロアチアという国の中のハンドボール

―選手と指導者の関係性―



小林 佑弥
（在、クロアチア）

現在クロアチアの首都ザグレブに滞在し、ハンドボールのコーチングを学んでいます。

はじめに、簡単に自己紹介させていただきます。私は1995年6月2日生まれで出身地は茨城県です。同県の筑波学園ハンドボールクラブという小学生チームでハンドボールをはじめ、手代木中学校、藤代紫水高校、早稲田大学と進学し、現在は休学中です。

今回は、「クロアチアという国の中のハンドボール」と題し、クロアチア国民にとってのハンドボール、その環境などについて触れていきたいと思います。

クロアチア男子代表は国際大会のベスト4常連国で、いわゆる強豪国という地位をハンドボール界で築いています。また、私が主に勉強させていただいている Rukometni Klub Prvo Plinarsko Društvo Zagreb（通称 RK PPD Zagreb）というクラブもまた、昨シーズンと今シーズンの EHF チャンピオンズリーグではベスト8に進出している強豪クラブであります。今シーズンの EHF チャンピオンズリーグのベスト8に進出したすべてのクラブにクロアチア人選手が所属しているという事実が物語るように、育成大国としても知られているのがクロアチアです。

この国のハンドボールの人気は競技の順位でいうとサッカー、バスケットボールに次ぐ3番目の位置づけです。代表チームや RK PPD Zagreb が EHF チャンピオンズリーグを戦う際にはほぼテレビで生放送されます。EHF チャンピオンズリーグがホーム開催される場合は15,000人収容の競技場いっぱいに人々が集まります。平日開催であっても10,000人前後の来場者数を記録します。メディアも積極的にハンドボールを取り上げ、RK PPD Zagreb の練習場にはテレビ局や新聞記者が頻繁に出入りします。専門誌は存在しないものの、スポーツ新聞で「ニコラ・カラバティッチ」（フランス代表）や「ユレン・アギナガルデ」（スペイン代表）といった選手名を挙げて、試合前の展望を述べているように国民のハンドボールというスポーツの認知度は非常に高いように感じます。

RK PPD Zagreb やクロアチア男子代表の人気は高い一方、国内リーグの人気はあまり高くないように思います。RK PPD Zagreb は国内1部リーグには参戦しておらず、SEHA（南東欧ハンドボール連盟）が主催する SEHA リーグと EHF チャンピオンズリーグの2つのリーグを戦っています。RK PPD Zagreb を除いた国内クラブの経済状況は良いとは言えません。プロ契約をしているものの、ほとんどの選手がクロアチア国民の平均月収の8万円前後という賃金で契約しており、他に仕事をしている選手や、大学生をしながらプロ選手として活動している選手もたくさんいます。1部リーグでもプロ契約選手がひとりも存在しないアマチュアクラブもあります。試合を観に来るのは家族や友人ぐらいで、入場料もほとんどの試合では無料です。そのような厳しい国内事情から、ドイツやフランスの豊かなクラブでのプレーを望む選手がたくさんいます。



私がクロアチアの選手・指導者と関わっていく中で、クロアチアの選手と監督の関係は大きく日本と異なると感じた事がいくつかあります。私が日本でプレーしたすべてのチームで「コートの中では年齢は関係ない」と指導者や先輩から言われてきました。私も同じように、後輩に思い切ってプレーをしてほしいという思いを込めて同じ言葉を伝えてきました。クロアチアの選手にとっては、それは

選手と指導者の間のコミュニケーションでも同じです。クロアチアの選手は大人になると指導者に対して敬語を使いません。加えて練習中に遠慮なく指導者の指示に異議を唱えます。

ここで、私が衝撃を受けたエピソードをお伝えします。RK PPD Zagreb 所属でクロアチア代表でもあるスティーペ・マンダリニッチという選手は高いシュート力とシュートバリエーションで得点するタイプの選手ですが、その決定力の高さから、チームのオフェンススタイルを無視しても容易に得点できてしまいます。こういった選手は日本でも中高生のうちは珍しいことではないと思います。みなさんもお気づきのように、決まってそういうタイプの選手がいるチームはその選手の調子次第で勝敗が左右されてしまいます。それを避けたい監督は彼の球離れの悪さを指摘し、シンプルで確率の高い得点方法をアドバイスしました。しかしマンダリニッチは「俺はちゃんと点を取っているのだから、あの点の取り方でいいじゃないか」と監督に言い返しました。日本で同じことをすれば、人格破綻者と言われかねない発言だと思います。確かに彼はそのチームの中で最もアクの強い選手ではあるのでこれは極端なエピソードかもしれませんが、彼のこの発言が私にクロアチアという国が強豪国という地位を築いているかを感じさせてくれたと思っています。クロアチアの選手、特にバックプレーヤーとしてトップレベルに君臨する選手はそれぞれが「自分のハンドボール」というものを持っています。そしてマンダリニッチのようにクロアチア代表としてプレーするレベルの選手はそれを頻繁に主張します。トレーニング中の会話の中でしばしば聞こえてくるのが「これがハンドボールだ」という言葉です。同じように指導者も自分のハンドボール観を選手にぶつけ、その一部にしようと努めます。指導者のハンドボール観はきちんと彼らの個性を存分に発揮したものです。ところが選手にとっては点が取れるか取れないか、守れるか守れないか、これが彼らのハンドボール観の倫理になっていることがほとんどであるため、指導者がそこまで考えを巡らせていることに実感を持つことができないのです。そのために勝利を予期させるだけの戦略の立案を周到に行わなくてはなりません。激しいディベートが日常的に繰り広げられますが、彼らの間に確執などは存在せず、強い信頼関係を築いています。マンダリニッチにもプライドがあるので最初は提案を受け入れませんが、最後には納得してプレーします。それは監督のコーチングによって勝利へのビジョンが見えたからです。「こうなりたい」という大きな目的から、一つのプレーごとに「こうやって点を取りたい」「守りたい」「シュートをセーブしたい」という小さな目的をこなすことができるクロアチアの選手の姿勢こそがイヴァノ・バリッチ（2003年IHF年間最優秀選手）やドマゴイ・ドゥヴニャク（2013年IHF年間最優秀選手）のような強力な個を生み出す源であると感じています。また、彼らの能力や性格を把握し、個性を出し切ることが勝利への近道という考えのもとに組織していくRK PPD Zagrebのヴェセリン・ヴヨヴィッチ監督の手腕も私の描く指導者像に影響を与えました。

日本人は協調性があり、勤勉な民族です。クロアチアで暮らすことによって私はいっそう日本人が大好きになりました。しかし、日本の子どもたちは指導者への主張が上手くできずに自分の気持ちに嘘をついた行動をとるように思います。上手くいっているようで実は彼らと指導者のコミュニケーションはとれていないことがほとんどなのではないか、とも思ってしまいます。マンダリニッチは日本でいうと我儘な選手にあたるのかもしれませんが、彼のような選手こそが指導者の器を超えた能力を持つナチュラル・タレントだと私は考えます。日本では同じ文化のもとでの指導はできませんが、日本人のコーチング技術をより質の高いものへとアップデートしていくヒントになるのではないでしょうか。



～あきらめない、努力⇒挑戦～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

リオデジャネイロ・オリンピックの足音が日増しに高まってきている。2020年の東京大会に向けて若い力の躍動やホスト国・日本のメダル獲得数など話題には事欠かない。テレビ桟敷で連日のように観戦を楽しもうと今から楽しみいっぱいである。

でも、やはりハンドボールが出場しないのは、寂しさ、悲しさ、悔しさが募るのは間違いない。

それはひとまずおいて、私が最も注目しているのが金藤理絵という選手である。競泳陣で女性として初めて主将に指名された200㍍平泳ぎを得意とするスイマー。2度目の五輪へモチベーションが上がっている。

北京五輪では7位に入賞したが、ロンドン大会では代表入りさえ逃した。ショックから一時は引退も脳裏をよぎったが、家族や指導者ら周囲の温かい励ましもあって「もう一度チャレンジしたい」気持ちが沸いてきたと言う。それからは泳ぎだけでなく、フィジカル強化にも励み、見事に復活を遂げた選手だ。

自他ともに元なでしこジャパンの澤穂希さん似を認めており「澤さんのように頼られる存在になれれば」と言う女子競泳陣最年長スイマー。悲しみ、苦しみを乗り越え再び五輪の舞台に立つ"あきらめない"強い精神力、そして周囲への感謝を忘れない気持ちには敬服するしかない。

なぜ彼女のことを今回書こうと思ったか。答えは簡単で明快だ。

「努力、あきらめない気持ち」が復活劇につながったからである。と同時に周囲への感謝が背中を押したと言っても過言ではない。

こんなこともあったと言う。

落ち込んでいた時にあった姉の結婚式。披露宴で突然、レースや練習ぶりがスクリーンに映し出されると言うサプライズ。姉が周囲には内緒で仕組んだ励ましの"憎い演出"だった。

「もう一度、世界へ…」。気持ちを奮い立たせ、以前よりも練習により真剣に取り組んだ。その結果が日本選手権でたたき出した日本新記録のアナウンスである。

ハンドボール界だけでなくスポーツ界、あるいは社会生活でも、挫折、つまずきなどを経験した人は多いだろう。どう乗り越えるか、どう乗り越えたか、あるいは乗り越えられなかったか―さまざまな姿がそこにはあるのが現実だ。

しかし、努力することが人間を大きくすることにもつながるはずだ。ハンドボールの五輪への挑戦は幾度となく跳ね返されてきた。しかし、原因をしっかり分析し、努力を重ね、あきらめず精進することで夢を追い続けたい。あきらめず、努力すれば夢がかなう―素晴らしい手本が金藤選手の復活劇ではないかと思う。

2016年度全日本大会レフェリー名簿

（平成28年6月1日）第2版

大会	開催地	期日	審判員氏名
第29回 全国小学生大会 （8ペア）	京都府 京田辺市	7月29日 ～ 7月31日	◎○小山　勉 福永賢一・鳥羽　勇（奈良）　吉田　健・岡野哲裕（京都）　塩見雅之・近藤和矢（京都） 上原一人・高村　一（長野）　服部博幸・長坂直樹（長野）　井口京子・東野流生（東京） 石間　徹・土橋孝充（神奈川）　仁木大輔・弘田睦仁（高知）
第67回 全日本高校選手権 （24ペア）	山口県 周南市 光市 下松市	8月2日 ～ 8月7日	◎島村浩信○ 河合威廷・臼井　健（協会指名）　永春文義・安田　寛（協会指名）　小田健介・鈴木孝明（北海道） 邊　輝哲・工藤和貴（岩手）　林田誓太郎・榛葉　剛（東京）　城戸佑太・東川泰斗（福井） 軒田隼人・栗田基秀（静岡）　郡司恵太・森　将太（愛知）　西山周良・太田直希（京都） 北山力也・貝田良寛（兵庫）　藤本靖雄・西村隆典（山口）　水津研二・岡田雅央（山口） 山本孝志・山根貴志（島根）　藤原孝夫・野口博史（鳥取）　指野　緑・石原圭二郎（岡山） 山地　翔・川内健矢（香川）　天野誠司・松村和紀（徳島）　河野翔保・小笠原龍太（愛媛） 川上健一朗・金子慎吾（長崎）　神田史郎・小牟禮竜太（鹿児島）　宮崎和彦・篠田政明（大分） 村杉善之・飯塚敏章（福島）　畑中寛之・梅木信男（岐阜）　梅本　司・那須章浩（山口）
第21回 ジャパンオープン （15ペア）	愛媛県 松山市 西条市	8月6日 ～ 8月9日	◎藤井俊朗○武智誠治 土橋邦彦・清水啓佑（協会指名）　田中　愛・梶原智子（協会指名）　石垣正樹・佐々木優（北海道） 荒井啓貴・古賀直哉（宮城）　和久長義・野川早苗（埼玉）　手塚　勝・西田豊三（福井） 小濱沙也香・深津美亜（愛知）　髙橋知滉・木下智晴（大阪）　岡村敏行・濱口雄飛（兵庫） 石原秀和・国澤　隆（岡山）　鍋島圭太・澤田英二（高知）　堀川智宏・内海秀昭（大分） 権藤洋文・末吉正明（佐賀）　佐藤卓也・園谷健志（福井）　森實岳史・井関　敦（愛媛）
第45回 全国中学校 （12ペア）	石川県 金沢市	8月21日 ～ 8月24日	◎戸塚幸廣○岩上浩一郎 荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）　土橋邦彦・清水啓佑（協会指名）　佐藤卓也・園谷健志（福井） 岩角聖孝・上飯坂徹（岩手）　矢崎　豊・名取　中（山梨）　近藤寛之・古山由樹（大阪） 水野　遼・山田祐輔（愛知）　下屋幸比古・佐々木聖恭（岐阜） 宮崎宜之・堀田由男（和歌山）　濱田哲雄・森山陽介（高知） 新垣裕己・比嘉育志（沖縄）　岡　裕之・東出拓也（石川）
第6回 全日本社会人選手権 （8ペア）	山形県 東根市	8月31日 ～ 9月4日	◎吉田敏明○中舘　豊 太田智子・島尻真理子（協会指名）　本田昭太・田渕元雄（協会指名）　小川至門・内記　徹（協会指名） 新井友彦・中嶋　秀（協会指名）　田中　愛・梶原智子（協会指名）　大澤　勝・谷藤　航（岩手） 松本光則・南川裕隆（愛知）　蟻川武司・瀬良研一（愛媛）
第71回 国民体育大会 （18ペア）	岩手県 花巻市	10月6日 ～ 10月10日	◎藤井俊朗○中舘　豊 荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）　川端祐貴・今泉暢禎（協会指名）　高橋容平・磯部尚志（北海道） 小田健介・鈴木孝明（北海道）　森　義則・高階和也（秋田）　村杉善之・飯塚敏章（福島） 斉木翔平・北野冬馬（神奈川）　田渕　舞・黒木美和子（神奈川）　仲野和也・藤坂明雄（福井） 森山海里・髙橋ひかり（長野）　松本光則・南川裕隆（愛知）　畑中寛之・梅木信男（岐阜） 木下豪人・竹ノ下晴彦（和歌山）　佐々木皇介・馬場智也（広島）　河野翔保・小笠原龍太（愛媛） 前上里亘・知念昌平（沖縄）　森實岳史・井関　敦（愛媛）　岩角聖孝・上飯坂徹（岩手）
男子第59回 女子第52回 全日本学生選手権 （16ペア）	徳島県 鳴門市	11月19日 ～ 11月23日	◎高野　修○武智誠治　＊各ブロック学生連盟からの推薦を参考に調整。 太田智子・島尻真理子（協会指名）　本田昭太・田渕元雄（協会指名）　田中　潤・河合　哲（香川） 小田健介・鈴木孝明（北海道）　大澤　勝・谷藤　航（岩手）　中川英明・大房和男（富山） 伊東史裕・菅原圭悟（神奈川）　水野　遼・山田祐輔（愛知）　木下豪人・竹ノ下晴彦（和歌山） 佐々木皇介・馬場智也（広島）　福島亮一・重村達浩（熊本）　藤本靖雄・西村隆典（山口） 山地　翔・川内健矢（香川）　鍋島圭太・澤田英二（高知）　天野誠司・松村和紀（徳島） 岩本靖史・藤原　初（徳島）
第67回 日本選手権 （12ペア）	東京 八王子市 世田谷区	12月20日 ～ 12月25日	◎藤井俊朗○仲田　稔○浜田浩和○ 日本協会競技本部で選出
第25回 JOCカップ （14ペア）	沖縄県 浦添市 那覇市	12月23日 ～ 12月27日	◎戸塚幸廣○ 日本協会指名２ペア　日本協会指名２ペア 黒木秀吾・豊田貴之（東京）　横川賢一・村田紀子（栃木）　片山　聡・大岩広人（静岡） 近藤　悟・吉田博紀（静岡）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫）　近藤和矢・塩見雅之（京都） 青江活茂・所　努（岡山）　濱田哲雄・森山陽介（高知）　佐藤高行・島村奈央美（福岡） 樋口　聡・江田優紀（熊本）　海江田貴嗣・永吉浩幸（鹿児島）　金城勇人・末吉　哲（沖縄）
第11回 春の全国中学生選手権 （18ペア）	富山県 氷見市	3月25日 ～ 3月29日	◎藤井俊郎○戸塚幸廣○岩上浩一郎 河合威廷・臼井　健（協会指名）　土橋邦彦・清水啓佑（協会指名）　大久保孝・中里雄太（青森） 伊藤　奨・横山　智（山形）　野中　毅・小塙和也（栃木）　稲生淳一・澤﨑亮太（千葉） 赤池博仁・吉田　威（山梨）　上原一人・高村　一（長野）　横嶋信一・櫻井隆光（富山） 吉村あゆみ・奥村紗里（石川）　貝沼圭吾・須原幸一（三重）　深見忠司・伊藤誠祐（愛知） 若森紗羅良・山下祐輝（岐阜）　小島康次・圓道　慶（大阪）　髙橋知滉・木下智晴（大阪） 早瀬　司・小宮　直（滋賀）　寺尾智明・柴岡貴広（岡山）　橋口哲也・谷藤　康（徳島）
第39回 全国高校選抜 （18ペア）	兵庫県 神戸市 加古川市 高砂市	3月24日 ～ 3月29日	◎島村浩信○ 新井友彦・中嶋　秀（協会指名）　田中　愛・梶原智子（協会指名）　合田享弘・橋本　賢（北海道） 中野達也・大坊春樹（岩手）　高橋恭文・塚本　光（東京）　岡　裕之・東出拓也（石川） 各務宗孝・森　裕太（岐阜）　糸井亮太・大石　剛（愛知）　加藤俊宏・西　敏昭（愛知） 秦　隆二・秦　伊織（奈良）　鵜野裕基・杉山耕平（大阪）　岡村敏行・濱口雄飛（兵庫） 竹安末央・浜田倫暢（鳥取）　櫻　佑介・有馬知弘（広島）　大西健太郎・松本勇樹（香川） 近藤啓司・瀬良耕二（愛媛）　青木忠久・原口佳也（長崎）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫）

平成28年度 第19回ハンドボール研究集会要項

テーマ 「ゴール型教材としてのハンドボール―その9―」

趣　旨　平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が従前の種目の列挙を改定して3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そして今回の改訂までの間、ほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの技能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値をさらにアピールしていくとともに、低・中学年のゲーム領域、及び中学校の球技との関連性を考慮した一貫指導体系を確立していかねばならないという必要性に迫られている。そこで本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

主　催　公益財団法人日本ハンドボール協会

主　管　鹿児島県ハンドボール協会　霧島市ハンドボール協会

後　援　スポーツ庁　鹿児島県教育委員会（申請中）
霧島市教育委員会（申請中）
（公財）鹿児島県体育協会（申請中）
（公財）霧島市体育協会（申請中）

対　象　小学校、中学校及び高等学校教諭、教員養成大学学生・大学院生及び教員、地域スポーツ指導者、日本ハンドボール協会J級指導員等

会　期　平成28年8月2日（火）～3日（水）

会　場　霧島市隼人体育館
霧島市隼人町内山田1-14-16　TEL：0995-42-0051
霧島市農村環境改善センター　多目的ホール
霧島市隼人町内山田1-14-10　TEL：0995-42-1911

日　程

8月2日（火）

受　付　12：00～12：30（霧島市農村環境改善センター）
開会式　12：30～12：50（霧島市農村環境改善センター）
講　演　12：50～13：50（霧島市農村環境改善センター）
講師　岡出美則（筑波大学体育系教授）
研究発表　14：00～15：10（霧島市農村環境改善センター）
実技研修　15：30～17：00（霧島市隼人体育館）
講師　佐藤 善人（東京学芸大学教育学部准教授）
交流会　18:30～20:30（隼人体育館・ホテル付近で検討中）
※会場が決定次第、参加希望者には別途連絡

8月3日（水）

受　付　8：30～9：00（霧島市隼人体育館）
授業提案　9：00～9：45（霧島市隼人体育館）
霧島市立宮内小学校6年
「ゴール型ゲーム～ハンドボール～」
研究協議　10：10～11：00（霧島市農村環境改善センター）
講　義　11：15～12：15（霧島市農村環境改善センター）
講師　大友　智（立命館大学スポーツ健康科学部教授）
閉会式　12：15～12：30（霧島市農村環境改善センター）

学校体育専門委員会事務局
〒501-1193　岐阜県岐阜市柳戸1-1
岐阜大学教育学部　杉森研究室 気付
E-mail：sugimori@gifu-u.ac.jp　TEL & FAX：058-293-3123

大会事務局
〒890-0082　鹿児島市紫原6丁目31-19
鹿児島市立紫原中学校　肝付 啓輔
E-mail：kk19890619@yahoo.co.jp
TEL：099-257-4554　FAX：099-257-4507

参加費
教員・指導者　3,000円
学生・大学院生　1,000円（当日、受付にて学生証提示）
※資料代、及び保険料込み。当日受付にて徴収
交流会参加費　4,000円

参加申込　参加を希望される方は、別紙参加申込書に必要事項を記入の上、E-mailかFAXの方法で上記「大会事務局」までお申し込み下さい。申込〆切日：平成28年7月25日（月）

発表申込　研究集会のテーマに関係する研究及び実践報告を募集します。発表を希望される方は、大会事務局、または専門委員会事務局まで直接ご連絡下さい。

1）口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は、演題数により変更することもあります。
2）発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。
3）締切り日：平成28年7月22日（金）

尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。
その他、発表に関してご不明な点は、大会事務局までお問い合わせ下さい。

宿　泊　宿泊を希望される方は、会場近くのホテルを斡旋しますが、大会事務局の確保数に限りがありますので、早めにお申し込み下さい。
宿泊先：ロイヤルイン国分　霧島市国分府中町35-43
料　金：5,500円（1泊朝食）
申込先：トスインターナショナル株式会社
E-mail：toss-hajime@nifty.com　TEL：096-288-2891

平成28年度授業実践推進制度に基づく授業実践者募集要項
「小学校体育科授業におけるゴール型ハンドボール教材の展開について」

1　趣旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題について、総合的に授業実践を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2　授業実践内容

(1) 授業実践のテーマは次のとおりとする。

ア　児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

イ　簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

ウ　ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

エ　その他

(2) 授業実践者は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゴール型ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、授業実践を進めることとする。

3　授業実践期間

おおむね2年間とする。

4　対象授業実践者

各都道府県協会より推薦された教員の中から6名程度選出する。選出は（公財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5　授業実践に当たって

(1) 授業実践者は、校内における授業体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に授業実践を推進する。

(2) 授業実践者は、（公財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に授業実践を推進すること。

(3) 授業実践者は、第1年次には授業実践の中間報告書を、また授業実践期間の終了時には授業実践成果報告書を、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

(4) 日本協会は、必要に応じて授業実践者および都道府県協会と連絡をとり、授業実践の推進について意見および情報の交換を行なう。

6　経費

日本協会は、授業実践の委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、1年目が6万円、2年目が4万円とする。

7　その他

日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8　締切

第一次締切：平成28年7月15日（金）

9　申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（公財）日本ハンドボール協会学校体育専門委員会
（代表　杉森弘幸）
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学教育学部
保健体育講座　杉森研究室
TEL/FAX：058-293-3123
E-mail:sugimori@gifu-u.ac.jp

日本ハンドボール学会主催　第３回研究セミナー報告

報告者　**仙波 慎平**（筑波大学大学院）

2016年２月27日、東京理科大学葛飾キャンパスにおいて、日本ハンドボール学会第３回研究セミナーが開催されました。参加者はこれまでの研究セミナーの中で最も多い41名でした。ここでは、セミナー参加者の立場からその概要を報告します。

今回のテーマは「ゲームパフォーマンスを数量的に分析・研究する方法」でした。講師は、東京理科大学理工学部・准教授である市村志朗先生。市村先生は、日本ハンドボール学会理事、日本ハンドボール協会情報科学委員会副委員長も務めており、2016年１月に開催された男子アジア選手権では、分析担当としてオルテガ監督をサポートしています。研究セミナーは、前半は講義形式、後半は演習形式で開催されました。

1．ゲームパフォーマンスの分析方法

ほとんどのスポーツにおいて「いつ」、「どこで」、「だれが」、「なにを」、「なぜ」、「どのように」といった記録が行われています。ハンドボール競技における公式戦では、日本ハンドボール協会の公式記録用紙が用いられ、時系列に「いつ」、「だれが」、「なにを」が記録されています。このような現象の記録によるゲームパフォーマンス評価手法は「記述分析」と言われており、多くの「記述分析システム」が報告されています。「記述分析」では、起こった現象を数値化し、客観的にデータを扱うことができます。また「記述分析」は、コート内で起こった現象の回数や時間などを記録し、パフォーマンスを量的に評価することは得意です。しかし、パフォーマンスを質的に評価することは苦手で、スポーツ活動の技能を数量化するには、未だに改善の余地があると話されていました。

2．第17回アジア選手権における分析作業

2016年１月に開催された第17回アジア選手権に、日本代表男子チームの分析班として帯同した時の話をされました。日本代表男子チームは12月にハンガリー遠征を行い、１月からバーレーンで世界選手権出場をかけてアジアの強豪国と戦いました。大会直前、監督にカルロス・オルテガ氏が就任したため、オルテガ監督に日本代表選手の特徴や得意なプレー・苦手なプレーをひとり３分程度の動画に編集し、ハンガリー遠征に出発する前に渡したとのことです。これにより、オルテガ監督は選手の特徴を把握して、チームにすばやくとけ込むことができたと話されていました。ハンガリーに着いてからは、普段のトレーニングの撮影、ミーティングのための動画編集、アジア選手権での対戦国のスカウティングを行っていたとのことです。特に初戦で対戦する韓国のスカウティングは重点的に行ったとのことでした。というのも、韓国はリオデジャネイロオリンピック男子アジア予選の時から選手が大幅に変わっていたからです。新チームの映像を手に入れることがとても難しかったと話されていました。

市村先生は、ゲームだけでなく普段のトレーニングを評価することの重要性を述べていました。普段のトレーニングからシュート成功率を算出したり、ゲーム形式のトレーニングではミス率や攻撃成功率なども分析したりして、選手の得意なプレーや苦手なプレーを客観的に評価したとのことです。また、監督には「何を知りたいか」を聞き、そのために、「準備」、「記録」、「分類」、「考える」といった過程の中で、特に「準備」の段階を大事にし、数多くあるデータを整理し、選手や監督に「何を」、「いつ」、「どのように」見せるかを考えていたとのことでした。実際にオルテガ監督からはきっかけプレーの分類をわかりやすくしてほしいという要望があり、一つひとつのきっかけに名前を付けて、動画を選手に見せていたという話をされました。

ゲームをどのように分析したかについては、実際に使用した記録データを用いて話をされました。試合をビデオカメラで録画しながら、パソコンのソフトを用いて「セットディフェンス」、「速攻」、「セットオフェンス」、「速攻の戻り」の局面ごとに分析を行い、「誰が」、「どこで」、「何を」も分析していました。例えば、セットディフェンスの局面で、相手選手の５番がユーゴのきっかけを使い、ミドルシュートを打ってゴールしたといった一連の流れを記録することにより、相手チームの特徴や自チームがどのように失点したのかがすぐに分析できます。試合が終わるとデータをまとめて、グラフや図を作ることにより、選手や監督にわかりやすくフィードバックを行い、次の対戦相手の分析を行うという流れで分析作業を行っていたと報告されました。

3．ゲーム分析演習

参加者が持参したチームのスコアシートを用いて「どんな情報を知りたいか」をテーマに、そのためにはどのような数的データを取得する必要があるかを演習形式で学びました。各チームが使用しているスコアシートにはそれぞれ長所と短所があります。例えば、日本で多く用いられているスコアシートでは「いつ」、「誰が」が分かりやすく表記されていて、ハンドボール競技に詳しくなくても記入できます。しかし、「どこで」、「どのように」といった情報、シュートミスやテクニカルミスでボールの所有権が変わったことなどが記入されていないため、スコアシートを見ただけでは試合の流れが分からないという短所があります。こういった数的データからどんなゲームパフォーマンスが明らかになるのか、どのように改良すればこれから明らかにしたいゲームパフォーマンスを示せるかがグループに分かれて議論されました。参加者からは、ゴールキーパーの分析を行うという案が出ました。具体的には、相手がボールを獲得してからの「待ち」、攻撃が開始されてからの「位置取り」、シュートが打たれるまでの「構え」などの局面に分けて分析することにより、ゴールキーパーの競技力向上につながるのではないかという案でした。その他、ポストプレーヤーが攻撃にどのように絡んでいるかについての分析、ディスタンスシュートにおける状況の分析など、多くの参加者から活発な意見が出されました。

4．おわりに

ハンドボールでは今後、ベンチに電子機器を持ち込むことが認められる可能性があり、リアルタイムのゲーム分析の重要性が高まると予想されていました。また、今回の日本代表男子チームには分析班として市村氏の他にもう１人帯同し、仕事を分担することができ、スムーズな分析活動を行うことができたと述べていました。これらの話を聞き、代表チームをサポートする分析班の体制を整えるために、ゲーム分析ができるコーチやアナリストの育成が必要であると感じました。

第11回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

開催期日：2016年3月26日（土）～29日（火）
会　場：氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男子】

▼１回戦

矢巾（岩手）	35	（20－10、15－11）	21	多久中央HC（佐賀）
氷見南部（開催地）	27	（11－10、16－11）	21	山梨南（山梨）
大住（京都）	21	（6－14、15－6）	20	松崎（福岡）
安居（福井）	26	（13－12、13－10）	22	LHC静岡（静岡）
岐陽（山口）	23	（11－6、12－9）	15	東大寺学園（奈良）
東久留米西（東京）	44	（23－5、21－10）	15	三本木附（青森）
小松原（宮崎）	19	（12－1、7－12）	13	高知南（高知）
郡山第一（福島）	33	（14－11、19－9）	20	石橋（栃木）
氷見北部（富山）	22	（8－10、14－11）	21	ヴァルト岐阜（岐阜）
隼人中・霧島HC（鹿児島）	27	（12－12、15－13）	25	那珂（和歌山）
小松南部（石川）	29	（12－9、17－14）	23	市川（千葉）
大分（大分）	24	（12－6、12－6）	12	境港第二（鳥取）
神森（沖縄）	26	（14－8、12－11）	19	水海道西（茨城）
香川第一（香川）	34	（14－8、20－12）	20	羽津（三重）
総社西（岡山）	29	（16－4、13－9）	13	彦根南（滋賀）
戸塚西（埼玉）	25	（12－10、13－12）	22	呉羽（記念枠）

▼２回戦

矢巾（岩手）	31	（14－13、17－12）	25	城東（徳島）
氷見南部（開催地）	30	（12－12、18－13）	25	高砂（兵庫）
甲田（広島）	30	（13－7、17－11）	18	大住（京都）
安居（福井）	39	（20－4、19－11）	15	富岡西（群馬）
滝ノ水（愛知）	16	（10－6、6－6）	12	岐陽（山口）
玉名（熊本）	30	（9－10、12－11）	26	東久留米西（東京）
		（3－1 延長 6－4）		
小松原（宮崎）	31	（16－7、15－11）	18	厚別（北海道）
郡山第一（福島）	57	（30－1、27－2）	3	柏刈HC（新潟）
氷見北部（富山）	45	（26－11、19－10）	21	湯沢北（秋田）
隼人・霧島HC（鹿児島）	26	（11－11、15－12）	23	岩崎（神奈川）
小松南部（石川）	24	（11－4、13－9）	13	久米（愛媛）
大分（大分）	32	（16－3、16－5）	8	中田（宮城）
神森（沖縄）	23	（9－9、14－12）	21	大体大浪商（大阪）
香川第一（香川）	42	（20－5、22－9）	14	埴生（長野）
総社西（岡山）	21	（12－7、9－10）	17	尾花沢（山形）
戸塚西（埼玉）	28	（17－6、11－3）	9	日宇（長崎）

▼３回戦

氷見南部（開催地）	36	（16－7、20－13）	20	矢巾（岩手）
甲田（広島）	32	（18－12、14－17）	29	安居（福井）
滝ノ水（愛知）	21	（10－7、11－9）	16	玉名（熊本）
郡山第一（福島）	21	（13－12、8－8）	20	小松原（宮崎）
氷見北部（富山）	32	（17－9、15－13）	22	隼人・霧島HC（鹿児島）
大分（大分）	24	（10－8、14－10）	18	小松南部（石川）
神森（沖縄）	27	（15－14、12－10）	24	香川第一（香川）
戸塚西（埼玉）	23	（11－10、12－11）	21	総社西（岡山）

▼準々決勝

甲田（広島）	38	（18－17、20－20）	37	氷見南部（開催地）
滝ノ水（愛知）	21	（10－10、11－6）	16	郡山第一（福島）
大分（大分）	25	（7－9、15－13）	24	氷見北部（富山）
		（2－0 延長 1－2）		
戸塚西（埼玉）	20	（10－7、10－12）	19	神森（沖縄）

▼準決勝

甲田（広島）	36	（11－15、15－11）	29	滝ノ水（愛知）
		（5－1 延長 5－2）		
戸塚西（埼玉）	24	（12－6、12－4）	10	大分（大分）

▼決勝

甲田（広島）	29	（14－13、15－15）	28	戸塚西（埼玉）

【女子】

▼１回戦

松橋（熊本）	33	（20－10、13－4）	14	氷見北部（開催地）
三松（宮崎）	40	（22－7、18－4）	11	成田（宮城）
羽島（岐阜）	31	（15－6、16－8）	14	土佐（高知）
総社西（岡山）	39	（22－6、17－14）	20	埴生（長野）
原川（大分）	28	（10－8、18－8）	16	花巻（岩手）
松崎（福岡）	28	（14－5、14－4）	9	静岡東（静岡）
今治東（愛媛）	27	（13－5、14－2）	7	凌雲・高盛（北海道）
氷見十三（富山）	31	（15－7、16－9）	16	東根第一（山形）
住吉（山口）	25	（11－4、14－7）	11	望海（兵庫）
武蔵村山第五（東京）	21	（9－8、12－10）	18	桜田（愛知）
湯沢北（秋田）	27	（11－8、16－7）	15	多久中央（佐賀）
芦城（石川）	27	（10－6、17－5）	11	花園（千葉）
大阪ジュニア（大阪）	27	（8－11、12－9）	22	笹中・南（三重）
		（1－2 延長 6－0）		
呉羽（記念枠）	23	（11－3、12－11）	14	塩山（山梨）

▼２回戦

松橋（熊本）	33	（18－1、15－5）	6	広島メイプルJr.（広島）
田辺（京都）	21	（10－3、11－6）	9	甘楽第一・第二（群馬）
三松（宮崎）	30	（11－6、19－10）	16	潮止（埼玉）
光陽（福井）	32	（16－8、16－9）	17	羽島（岐阜）
総社西（岡山）	26	（13－4、13－7）	11	多賀（滋賀）
原川（大分）	31	（12－3、19－12）	15	麻生（茨城）
上（奈良）	15	（7－6、8－7）	13	松崎（福岡）
岩崎（神奈川）	19	（7－8、12－6）	14	今治東（愛媛）
氷見十三（富山）	34	（19－2、15－2）	4	大平南（栃木）
住吉（山口）	23	（8－8、15－5）	13	仲西（沖縄）
武蔵村山第五（東京）	23	（10－5、13－11）	16	香川第一（香川）
西和（和歌山）	34	（16－7、18－8）	15	湯沢北（秋田）
芦城（石川）	31	（16－2、15－2）	4	郡山第一（福島）
大阪ジュニア（大阪）	28	（11－8、17－12）	20	隼人（鹿児島）
境港第二（鳥取）	20	（10－4、10－2）	6	城東（徳島）
呉羽（記念枠）	21	（14－5、7－8）	13	大野（長崎）

▼３回戦

松橋（熊本）	32	（17－8、15－7）	15	田辺（京都）
三松（宮崎）	28	（14－9、14－10）	19	光陽（福井）
原川（大分）	30	（13－8、17－4）	12	総社西（岡山）
岩崎（神奈川）	20	（9－3、11－3）	6	上（奈良）
氷見十三（富山）	22	（8－10、14－10）	20	住吉（山口）
武蔵村山第五（東京）	27	（14－2、13－14）	16	西和（和歌山）
芦城（石川）	34	（17－9、17－10）	19	大阪ジュニア（大阪）
呉羽（記念枠）	19	（7－5、12－8）	13	境港第二（鳥取）

▼準々決勝

松橋（熊本）	29	（12－8、17－5）	13	三松（宮崎）
原川（大分）	23	（11－11、12－10）	21	岩崎（神奈川）
氷見十三（富山）	35	（18－12、17－10）	22	武蔵村山第五（東京）
芦城（石川）	30	（17－5、13－10）	15	呉羽（記念枠）

▼準決勝

松橋（熊本）	28	（11－6、17－11）	17	原川（大分）
芦城（石川）	26	（14－9、12－15）	24	氷見十三（富山）

▼決勝

松橋（熊本）	22	（11－6、7－12）	21	芦城（石川）
		（2－2 延長 2－1）		

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【北海道】加藤慶仁【岩手】中舘　豊、高橋元一【茨城】相澤千代子【埼玉】豊田　武、豊田久恵、山口　亨、山口育子、鷹野博明、吉原　伯、辻　幸志、辻　七海【千葉】舎利弗芳子【東京】緑川正博、中澤重夫、菊地知男、梶間珠美【神奈川】吉岡豊次、近久紀人、棚村友博、斉藤航大、久保公雄、久保靖子【石川】酒谷信彦【静岡】宮岸健次、村井美保子【愛知】西川勤也、田中怜菜、浅野克彦、山本幸代【三重】加藤　公【大阪】赤星　明、草ノ井文子、大西和雄【岡山】村田憲俊【広島】山下明子、神田雅裕、有田　忍

【7月・8月の行事予定】

【会議】………………………………………………………………

7月9日(土)　常務理事会

【大会】………………………………………………………………

7月3日(日)～15日(日)
第20回女子ジュニア世界選手権………………　（ロシア）

7月4日(月)～10日(日)
第4回U-22東アジア選手権（男・女）…　（中国・蘇州）

7月9日(土)～10日(日)
第36回全国クラブ選手権大会・西地区………　（大分市）

7月9日(土)～10日(日)
第36回全国クラブ選手権大会・中地区（兵庫県・加古川市）

7月9日(土)～10日(日)
第36回全国クラブ選手権大会・東地区（北海道・函館市）

7月19日(火)～31日(日)
第6回女子ユース世界選手権（スロバキア・プラチスラヴァ）

7月22日(金)～24日(日)
第21回ヒロシマ国際大会………………………　（広島市）

7月22日(金)～8月1日(月)
第15回男子ジュニアアジア選手権（ヨルダン・アンマン）

7月29日(金)～31日(日)
第29回全国小学生大会……………　（京都府・京田辺市）

8月2日(火)～3日(水)
第19回ハンドボール研究集会……　（鹿児島県・霧島市）

8月2日(火)～7日(日)
高松宮記念杯第67回全日本高校選手権大会
………………………　（山口県・周南市ほか）

8月6日(金)～21日(日)
リオデジャネイロ・オリンピックハンドボール競技
……………　（ブラジル・リオデジャネイロ）

8月6日(土)～9日(火)
第21回ジャパンオープントーナメント
………………………　（愛媛県・松山市ほか）

8月16日(火)～18日（木）
第43回全国高等専門学校選手権大会（石川県・金沢市）

8月20日(土)～21日(日)
第24回全日本マスターズ大会………　（愛知県・豊橋市）

8月21日(日)～24日(水)
第45回全国中学校大会………………　（石川県・金沢市）

8月27日(土)～28日(日)
第18回全日本ビーチハンドボール選手権大会
……………………………　（兵庫県・神戸市）

8月27日(土)～9月7日(水)
第7回男子ユースアジア選手権…………　（バーレーン）

8月31日(水)～9月4日(日)
高松宮記念杯第6回全日本社会人選手権大会
……………………………　（山形県・東根市）

HAND BALL CONTENTS Jun. Jul.

次号8・9月合併号（No.561）は9月1日発行予定です。

molten
For the real game

Official Partner of IHF

国際ハンドボール連盟 公式試合球

IHF OFFICIAL GAME BALL



[3号球] 品番 **H3X5001-BW ¥8,400(本体価格)+消費税**
[2号球] 品番 **H2X5001-BW ¥8,200(本体価格)+消費税**
国際公認球 検定球 人工皮革 縫い ブルー×ホワイト ラテックスチューブ

www.molten.co.jp





（公財）日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』第五六〇号

平成二十八年六月二十六日印刷
平成二十八年七月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話　代表〇三－三四八一－二三六一
振替　〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人　川上憲太

定価　年間三三〇〇円